

リアホナ



表紙の記事——

ソルトレーク・
タバナクルの
内側を見る
34ページ

真理を学ぶ最良の方法, 16ページ

あたらしいしんでんカード
「フレンド」15ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌 (日本語版)

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会: ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長: ジェイ・E・ジェンセン

顧問: ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦, ジェラルド・N・ランド, W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター: ビクター・D・ケープ

主任編集者: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長: ライアン・カー, アダム・C・ホルソン

編集補佐: スーザン・パレット

編集スタッフ: クリスティーン・バンス, リンダ・ステール・クーパー, デビッド・A・エドワーズ, ラリー・ポーター・ガント, キャリー・カステン, メリッサ・メルル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, リチャード・M・ロムニー, ジェニファー・ローズ, ドン・L・サール, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェッブ

主任秘書: モニカ・L・ディッキンソン

マーケティング部長: ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ: カリ・R・アロウ, コレット・ネベカー・オーズ, ブリタニー・ジョーンズ・ピーム, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・パーデッド, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, エリック・P・ジョンセン, デニス・カービー, ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター: クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター: ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座番/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30 電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共) 半年予約 1,200円(送料共) 普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。 Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA 電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, ウルドゥー語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリジャ語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアン語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, ビスマラ語, ヒンディー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マンダル語, マダガスカル語, モンゴル語, トビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用することは複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。 「リアホナ」は、教会のホームページ www.lds.org (英語) に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

September 2007 no. 9 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——靈感を伝える言葉
ゴードン・B・ヒンクレー大管長
- 16 信仰によって学ぶ望みを持つ
デビッド・A・ベドナー長老
- 25 家庭訪問メッセージ——
心と思いを一つにして、神の御手に使われる者となる
- 26 心の変化がもたらした永遠の結婚
ジェームズ・ウエルチ
- 34 タバナクルの改修工事
- 44 末日聖徒の声
ジョン兄弟の断食献金
グレッグ・バーゴイン
レモネードと1斤のパン
アナベラ・デ・レオン
だから、ほくに親切にしてくれるんだよね
イレイン・ピアソン
思い出せない贈り物
ゲーリー・R・ワングズガード
- 48 読者からの便り

16 信仰によって学ぶ望みを持つ



26 心の変化がもたらした永遠の結婚

34 タバナクルの改修工事



表紙

表紙——写真/A・アングル
裏表紙——写真/ジョン・ルーク

「フレンド」表紙

絵/マット・スミス

家庭のタバのためのアイデア

以下のアイデアは、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立てることが出来ます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「普通の人、並外れた召し」8ページ——預言者とはどんな人か、家族に説明してもらいます。世の中の人々は預言者についてどのような印象を持っているのでしょうか。ヒーパー・C・キンボール長老、エノク、パウロについての話を声に出して読みます。教会の指導者は神から召された普通の人であると説明します。最



後の5つの段落を参考にして、わたしたちが指導者にいっそうよく従うにはどうしたらよいか、話し合います。地元の教会の指導者に、感謝のしるしとして贈り物を用意します(食べ物、絵、カードなど)。

「信仰によって学ぶ望みを持つ」16ページ

——口の大きさや容量の異なる容器をいくつか用意し、並べて置きます。硬貨またはキャンディーを容器の中へ投げ入れてみます。どの容器が最も入れやすいでしょうか。それぞれの容器と、御霊によって学びたいという個人の望みをどのように

今月号のどこかに隠れている
スペイン語のCTRリングを捜しながら、
あなたが人のためにできる
よい行いについて考えてください。



30 救い主を見分ける



32 虫が口の中に飛び込んだら

青少年

- 7 ポスター——「固き墓」に建てていますか?
- 8 福音クラシック——普通の人、並外れた召し
ブルース・R・マッコキー長老
- 12 力を合わせる アダム・C・オルソン
- 30 短いメッセージ
試された夜 リーハイ・L・クルーズ
救い主を見分ける ジェイド・スワルトツベルグ
- 32 虫が口の中に飛び込んだら アロン・L・ウェスト
- 39 十分な断食とは ライリー・M・ロリマー
- 40 燔祭としてささげる ジョセフ・レイ・プリランテス
- 43 御存じでしたか?

フレンド

- F2 預言者の声——聖なる地
トーマス・S・モンソン 管長
- F4 分かち合いの時間——
おつかえになったしゅ
エリザベス・リックス
- F6 スペンサー・W・キンボール だいかんちょうの
しょうがいから——小さなほうし
- F8 ちいさなみんなのために——あんそくにちによいことを行う
ジュリー・ワーデル
- F10 小さなお友だちへ——荷台に乗った聖徒たち
ベンハミン・デ・オヨス 長老
- F12 とびきりのえがお レイ・ゴールドラップ
- F15 しんでんカード
- F16 色をぬりましょう

F12 とびきりのえがお



F8 あんそくにちによいことを行う

比較することができるか尋ねます。この記事の中から、効果的に学ぶことについて述べている箇所を探します。これらの原則を実践する目標を立ててください。

「虫が口の中に飛び込んだら」 32 ページ——昆虫か、または昆虫の写真を見せます。「これを食べたいですか」と尋ねます。筆者の経験について話し合います。エジプトのヨセフの例から、ヨセフがどのようにして誘惑を「吐き出した」かについて話します。

「あんそくにちによいことを行う」 F8 ページ——1枚の紙を折って8等分します。記事にある8つの事柄一つ一つについて話し合い、家族にそ

れぞれの事柄を表す絵を描いてもらいます。その後、安息日にできるほかの活動を紙の裏に描くように勧めます。安息日に行く良い活動についてアイデアが必要になったとき、紙に描いた事柄を実行してみてください。

「とびきりのえがお」 F12 ページ——茶色の紙を細長く切って、「薪」を作ります。話を読みながら、その中に書いてある思いやりのある行為一つに対して1本の「薪」を重ね、キャンプファイヤーを作ります。「薪」の数が増えるほど火は明るく燃えることを説明します。「薪」を取り、その上に今週どのようように人に仕えることができるかを書いてもらいます。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

あかし証	2, 16	神権	2, 44, F2
あがな贖い	2, 12	信仰	16
悪の影響	2, 32	神殿	2, F15
アブラハム	40	スミス, ジョセフ	16
安息日	F8, F10	聖霊	16
イエス・キリスト	2, 12, 31, F4	ソルトレーク・タバナル	34
一致	12, 25	断食	39
エリヤ	8	断食献金	44
思いやり	F12	知恵の言葉	30, 47
改宗	45	中央幹部	8
家庭訪問	25, 46	日記	43
犠牲	40	ビショップ	8, 26
キンボール,		奉仕	
スペンサー・W	43, F6	45, F2, F4, F6, F12	
啓示	2, 8, 16	ホームティーチング	6
結婚	26	学ぶ	16
心の変化	26	模範	31
再臨	31	預言者	8, F6
指導者	8, 26, 43	霊の死	43
シングルアダルト	26		



靈感を 伝える言葉

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

最後の神権時代

「この最後の神権時代に〔神〕が祝福を注いでくださるのは何とすばらしいことでしょうか。この時満ちる神権時代に、神は以前のすべての神権時代に存在したあらゆる権能と、あらゆる栄光、真理、権威をもって御自身の業を回復されたのです。……

わたしは永遠の父なる神が生きておられ、わたしたちを愛しておられることを知っています。イエスが神の愛される御子であり、わたしたちの贖い主、救い主、主、友であられることを知っています。ジョセフ・スミスが過去、そして現在においても預言者であること、またこの教会が真実であり、わたしたちの祝福と幸福のために御二方の業が地上に回復されたことを知っています。」(ユタ州ソルトレーク・シティーでの地区大会、2003年5月4日)

福音が真実であることを知っています

「わたしは〔福音が〕真実であることを知っているでしょうか。今晚この部屋にいる皆さん一人一人に理解してほしいことがあります。それは、永遠の父なる神が生きておられることを知っている、とわたしが皆さんにお伝えしたということです。わたしは神が生きておられることを知っています。神が骨肉の体を持った御方であり、宇宙の偉大な神であられることを知っています。また、わたしも皆さんも神の子

供であること、神がわたしたちの祈りを聞き、こたえてくださることを知っています。

わたしはイエスがキリストであられることを知っています。イエスは地球を創造するために神の御手に使われる偉大な御方となりました。ヨハネの福音書には、一つとしてイエスによらないで造られたものはなかったと書いてあります(ヨハネ1:3参照)。主は創造主であり、旧約のエホバであられました。幼子キリストとして地上へ来て、つましい環境にお生まれになりました。主はメシヤとして前世で定められた使命を果たすために、御自身しか歩むことのできない道を行き、病人を癒し、死者をよみがえらせられました。主はカルバリの丘で亡くなり、3日目に「眠っている者の初穂として」よみがえられた、この世の偉大な贖い主です(1コリント15:20)。主はアメリカ大陸のニーファイの民を訪れ、聖地で教えたように彼らを教えられました。また、御父とともに少年ジョセフに現れ、この業の回復について語られました。

わたしは神権が地上にあること、ふさわしく生活するすべての男性に神権が与えられることを知っています。また、神殿の儀式、すなわちわたしたちが家族としてこの世と永遠にわたって結ばれる偉大な結び固めの儀式が地上にあることを知っています。神はこの業を放棄されることはなく、御自身の真理を人々に伝える仲立ちとなる人をいつもお立てになることを知っています。」(ケニア、ナイロビでの集会、2005年8月4日)



わたしは永遠の父なる神が生きておられ、わたしたちを愛しておられることを知っています。イエスが神の愛される御子であり、わたしたちの贖い主、救い主、主、友であられることを知っています。ジョセフ・スミスが過去、そして現在においても預言者であること、またこの教会が真実であり、わたしたちの祝福と幸福のために御二方の業が地上に回復されたことを知っています。

神

殿に入ることが
できるように
神の戒めを
守ってください。

主の宮で
奉仕するふさわしさを
身に付けるために
必要な事柄を
行ってください。

兄弟姉妹、
神殿は皆さんのために
建てられました。

現代の啓示

「わたしたちが現代の啓示を信じているのは、何とすばらしいことでしょう。生活が簡素だった古代に啓示が必要とされていたなら、生活が複雑になっている現代にも啓示が必要であるとわたしは強く感じています。地上の歴史のどの時代にも増して、現代ほど人類が啓示を必要としている時代はありません。

兄弟姉妹の皆さんに^{あかし}証します。啓示の書は閉ざされていません。神はアブラハム、イサク、ヤコブの時代と同じように、^{こんにち}今日も世界を導き、語られるのです。」(スペイン、マドリードでの集会、2004年5月29日)

真実かどうか試す

「兄弟姉妹の皆さん、もし皆さんがこの教会のどのような教義についても疑問があるならば、それが真実かどうか試すように心からお願いします。試してみてください。生活の中でその原則を実践してみてください。ひざまずいて、それについて祈ってみてください。そうすれば、神は皆さんを祝福し、この業が真実であるという知識を授けてくださいます。」(フランス、パリでの集会、2004年5月28日)

悪に打ち勝つ

「若い友人の皆さん、主の宮に参入するふさわしさと、亡くなった人たちの身代わりとして



スペイン・マドリード神殿の写真／マルガリータ・ディアス・ニラ。主はよみがえられた「デル・バートン」

偉大で驚くべき奉仕に携わるふさわしさを失うようなことは、何であれ決して行わないでください。

皆さんは多くの悪に直面します。悪に打ち勝ってください。……今日ほど世に悪がはびこった時代がこれまでの歴史上にあったとは思えません。悪に負けない強さを持った、教会の若い男性と女性の皆さんに敬意を表します。神が皆さんを祝福し、悪に抵抗する強さを与えてくださいますように。」(ブラジル、サンパウロでの集会、2004年2月21日)

この業の真の目的

「愛する姉妹の皆さんに強くお勧めします。主の宮に参入し、ご主人も一緒に参入するように勧めてください。もし皆さんの中にまだ神殿に参入したことがない人、あるいは長い間参入していない人がいれば、愛の気持ちを込めてお勧めします。神殿に参入する資格を得るために必要なことをすべて行ってください。まだ行っていないのであれば、教会が存在する目的を見逃していることとなります。天の神が宣言されたように、この業の真の目的は、人の不死不滅と永遠の命をもたらすことです(モーセ1:39参照)。あなたは伴侶を愛していますか。子供や孫、ひ孫を愛していますか。愛しているのなら、時が滅ぼすことも死が砕くこともできない永遠の聖約によって子供や孫が皆さんに結び固められる機会を失わないようにしてください。ほかの方法で永遠に結び固めることはできないのです。……

もしこれらの祝福が現代に生きる〔わたしたち〕に与えられているとすれば、公正な神は、そのような機会を与えられなかった先祖も祝福にあずかれるように道を備えてくださらないことがあるでしょうか。」(ユタ州ソルトレーク・シティーでのステーキ扶助協会の集会、2002年3月20日)

神殿に参入する

「ここにいる皆さんに申し上げます。神殿に参入してください。神殿に入れるよう、ふさわしく生活してください。神殿に入ることができるように神の戒めを守ってください。主の宮で奉仕するふさわしさを身に付けるために必要な事柄を行ってください。兄弟姉妹、神殿は皆さんのために建てられました。それは皆さんが参入し、他の神殿を除いては世界中のどこにも見いだせない素晴らしい祝福を得るためです。神殿で皆さんは夫婦として結び固められ、皆さんの子供が両

親である皆さんと結び固められます。また、すでに亡くなった皆さんの先祖の身代わりとして奉仕することができます。主の宮ではそのような偉大で驚くべき、素晴らしい無私の業が行われます。どうぞ神殿に参入してください。」(ナイジェリア、アバでの集会、2005年8月6日)

神権にふさわしく生活する

「神は〔神権を持つ〕皆さんに、力強く神聖なもの、実際に存在する有益なものをお与えになりました。皆さんは、まさに神の力の真髄である神権を祝福されているのです。神の聖なる御名によって語る権能、また人を祝福し、教え、励まし、助け、王国に関する事柄をつかさどるといった神の業を成し遂げる権能が皆さんに祝福として与えられています。それは高貴な神権の力です。神権について、取るに足りないこと、あるいは軽視できることは何一つありません。これは神の神聖な力です。その力により、地球が創造され、業が前進しています。そして、神は優しく寛大な心で、皆さんやわたしに、その権能と権威を授けてくださいました。わたしたちは神権にふさわしく生活するよう大いに努めるべきではない

でしょうか。聖なる神権と呼ばれる、この神々しく、神聖で、驚くべき力を行使するうえで、神の息子として授けられた資質を損なうような行いは決してしないでください。」(ユタ州プレゼントグローブでの地区大会、2003年1月19日)

教会員としての祝福

「この教会に所属しているのは、何と素晴らしいことでしょう。教会員でなければ、人生がいかにむなしなものとなるかを考えてみたことがあるでしょうか。イエス・キリストの福音を通して受ける、計り知れない祝福に対して……わたしたちはどれほど感謝すべきでしょうか。忠実な末日聖徒である皆さんに、そして主と、主の偉大で神聖な業への愛をもって、光と真理の中で子供たちを育てようと努めている皆さんに……わたしは感謝しています。」(ユタ州ウェストバレーシティーでのステーキ大会、2002年11月10日)

イエス・キリストの神聖な使命

「わたしたちは愛と信仰の一致の中で結ばれた大きな家族です。民として、また個人として、わたしたちが受ける祝福は素晴らしいものです。わたしたちの心の中には、主イエス・



キリストの神聖な使命について確固とした揺るぎない確信があります。

主は、旧約の偉大なエホバであり、御父の指示の下で、万物を創造された創造主です。『できたものうち、一つとしてこれによらないものはなかった』と書かれています(ヨハネ1:3)。主は約束されたメシヤで、『翼に癒しを携えて』来られました。主は奇跡を行われる御方、偉大な癒し主、よみがえりであり命です。天下でわたしたちを救うことができる名は、主の御名をおいてほかにありません〔使徒4:12参照〕。

……

主は永遠の御父の賜物として地上へ来られました。『神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。』(ヨハネ3:16)

主は自らの意志で天の御座を降り、他国に支配される国で、かいばおけの中にお生まれになりました。そして、その地のほこりの舞う道を歩いて病人を癒し、教義を教え、御自身を受け入れるすべての人を祝福されたのです。

主はカルバリの丘で、わたしたち一人一人のために御自身の命を捨てられました。これは人類が受けることのできる最も偉大な賜物です。すなわち復活と永遠の命の賜物です。

わたしたちは主の降誕を尊んでいますが、主の死がなければ、それは一つの誕生にすぎなかったでしょう。主の賜物を不滅のもの、普遍で永遠のものとしたのは、ゲツセマネの園とカルバリの十字架の上で成し遂げられた贖いなのです。主は偉大な贖いをもって全人類の罪を贖ってくださいました。主はよみがえりであり命であり、『眠っている者の初穂』です(1コリント15:20)。主のおかげで、全人類は墓からよみがえるのです。

わたしたちは主を愛し、尊んでいます。主に感謝し、主を礼拝しています。主はわたしたち一人一人のために、また全人類のために、ほかのだれもなし得なかったことをしてくださいました。全人類のために犠牲としてささげられた神の愛される御子、すなわちわたしたちの救い主、世の贖い主、傷のない小羊という賜物を下さった神に感謝します。』(宣教師のためのディボーションナル、2002年12月15日)

贖罪の祝福

「〔イエス・キリストの〕贖罪は、人類の歴史の中で最も偉大な出来事です。これに匹敵するものはほかにありません。贖罪は、御父がその子供たちの幸福のために用意された計画の中で最も重要な部分です。贖いがなくては、この死すべき

人生は何も得ることのないむなしいものとなります。希望も未来もありません。しかし神聖な贖い主の賜物は、わたしたちの人生にまったく新しい次元を開いてくれました。救い主の犠牲のおかげで、死がわびしい忘却のかなたにわたしたちを連れ去ることはなくなりました。死は、より栄光に満ちた世界へと続く通過点にすぎないのです。復活はすべての人にとって現実のものとなります。永遠の命は主の戒めに従順に歩む人々に与えられるのです。』(オーストラリアでのステーク大会の衛星放送、2005年2月12日) ■

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. ヒンクレー大管長の記事と写真を見せる。預言者のおもな役割の一つは、教え、証することであると説明する。関心のある箇所を声に出して順番に読むよう家族に勧める。預言者に従うことの大切さについて証を述べる。

2. 家族の一人に、その人以外は位置的に見ることのできないものを選んでもらう。その人はそれが見える位置に立ち、自分が何を見ているかを家族のほかの人に言葉で伝える。聖見者の役割について説明する(モーサヤ8:15-17参照)。記事の中から選んだ箇所を幾つか読む。預言者が述べるこれらの言葉は、わたしたちの霊的な視野をどのように広げてくれるでしょうか。

3. 記事の内容を表すようなもの(聖典、神殿の写真や救い主の絵など)を持って来る。それに対応する箇所を読み、これらの概念が天の御父から与えられたものだとはどうしたらよいかについて話し合う。聖霊の力を通して真理を知ることができると証する。

「固き基」に 建てていきますか？



マタイ7：24-27, 『賛美歌』46番参照



エリヤは
神から力を
受けたので、
祈りが聞かれて
天が閉じました。
また、天から雨が降り、
地がその実を
みのらせました。
こんにち
今日、大管長会と
十二使徒定員会は、
普通の人ではあるが、
天から力を受けた
預言者でもあります。



普通の人 並外れた召し

十二使徒定員会
ブルース・R・マッコンキー長老
(1915-1985年)

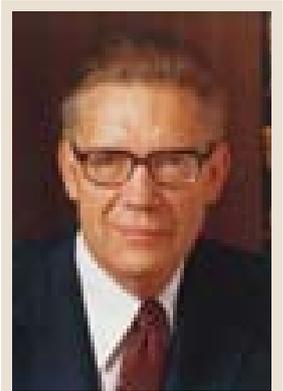
「**中**央幹部は普通の人でしょうか。」
これは、初期のころから多くの人が抱いてきた疑問だと思います。中央幹部としてわたしたちが召されている職が、深い敬意に値するものだという点からも、こうした疑問を抱くのはごく自然なことです。

迫害と苦難に満ちた教会初期の歴史から、ある出来事を思い起こします。当時、十二使徒定員会会員であったヒーバー・C・キンボール長老は、夫を亡くしていたある教会員の世話になりました。その姉妹は家にあったパンとミルクを勧め、長老のために寝室を用意しました。長老が寝室に向かうと、彼女はこう考えました。「いい機会だわ。十二使徒が主に祈るとき、どんな祈りをささげられるのか聞いてみましょう。」「これこそが昔から何度も繰り返されてきた「中央幹部は普通の人だろうか」というあの疑問です。」そこで、寝室のドアが閉まると、彼女はそっと忍び寄り、耳をそばだてました。キンボール長老がベッドに腰かける音が聞こえ、靴が床に落ちる音がしました。そしてベッドによりかかる音がして、次のような言葉が

聞こえてきたのです。「おお主よ、わたしを祝福してください。ヒーバーはへとへとです。」

……多くの人が、この点についてよく誤った考えを持っています。ジョセフ・スミスの時代にも大勢の人が同じ疑問を抱いていました。ジョセフはこう言っています。「今朝わたしは、東部から来たある人に紹介されて会いました。彼はわたしの名前を聞くと、わたしのことをただの人間じゃないかと言いました。その言い方からすると、主が御心を明らかにするのにふさわしいと思われる人は、何か人並み外れた存在であるに違いないと考えていたことが分かります。その人は、聖ヤコブの言葉を忘れていたようです。すなわち、[エリヤ]はわたしたちと同じように感情に動かされる人でしたが、神から力を受け、祈りが聞かれると天が閉じて3年6か月の間雨が降らず、そして再び祈りが聞かれると天から雨が降り、地がその実をみのらせたのです〔ヤコブの手紙5：17-18参照〕。まさに、今の時代の人々はこのように知識不足で無知なので、人が創造主と〔語る〕ことなど信じ難いと考えています。」¹

世の中の人は一般的にこう考えています。「預言者というような人がいるとすれば、その人は非常に気高く高尚なので、普通の人とは違っている。」人々は、荒れ野でいなごや野蜜



マッコンキー長老は、わたしたちが深い敬意を抱いている中央幹部の召しについて語ることにより、「中央幹部は普通の人でしょうか」という質問に答えています。

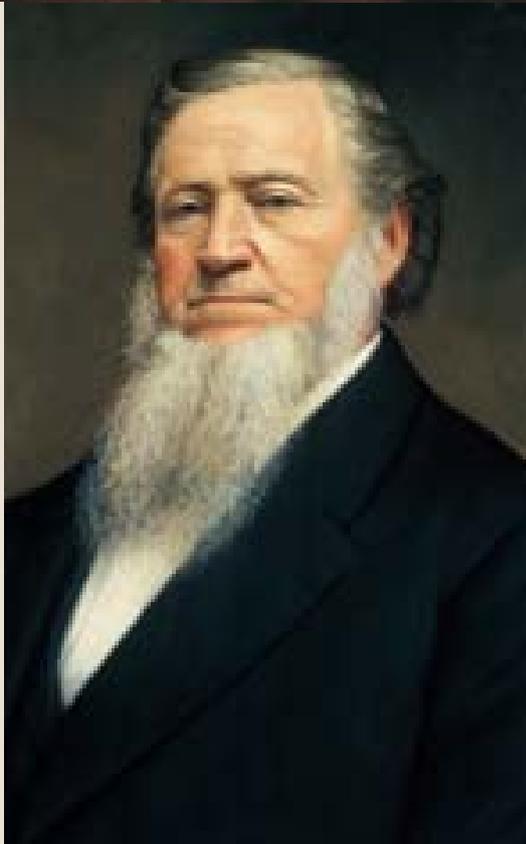


ジョセフ・スミスは、
預言者は

人並み外れた
存在に違いない
と考えていた人に
会いました。

しかし

ジョセフ・スミスは、
ブリガム・ヤングや
その後続いた
預言者のように、
自分は靈感を
受けているとしても、
死すべき人間であること
を知っていました。



を食べていたバプテスマのヨハネや、「野生の男が我々の中にやって来た」〔モーセ6：38参照〕と言われたエノクのような人のことを考えるのでしょ。

今日、^{こんにち}教会の中にもこのような考えが見受けられます。わたしたちは預言者の職が厳粛で栄光あふれ、偉大なものだと考えています。そうした思いの一部が必要以上に大きくなり、その職を持つ人にも当てはまると考えてしまうのです。

この問題をもっと分かりやすく考える方法があります。もしわたしが、「中央幹部は普通の人でしょうか」ではなく、次のような質問をしたら皆さんは何と答えるでしょうか。「皆さんのビショップは普通の人ですか。」もしくは、「宣教師は普通の人ですか。」答えは「はい」でしょうか「いいえ」でしょうか。それは、その人のどのような面に目を向けるかによって違ってきます。彼らもわたしたちも皆、人類に共通なあらゆる欠点や弱点、問題を抱えているという意味では、確かに普通の人であり人間です。しかし他方で、中央幹部やビショップ、宣教師、さらにすべての教会員は、世俗的、肉欲的なものを追う人間であってはなりません。もし「人間」という言葉が肉欲的な生き方を意味するのであれば、わたしたちは皆、「人間」であってはならないのです。

わたしたちは教会に入るとき、この世を捨てる決意をします。そして、この世に打ち勝つことを期待されます。モルモン書には、主なるキリストの贖罪しよくざいにより、生まれながらの人を捨てて聖徒となると書かれています（モーサヤ3：19参照）。もしわたしたち皆が、自らの持つ可能性にふさわしく、また目指す標準に従って生活するならば、だれも世俗的あるいは肉欲的な意味での人間にはならないでしょう。しかし、そのように努力したとしても、死すべき肉体を持つという意味で、またそれに関する点においては人間なのです。

拙著『モルモンの教義』(Mormon Doctrine [英語])の中の「中央幹部」という項で、わたし

はこのように書きました。「ある中央幹部は、一つのことをなすように力が与えられ、ほかの幹部は別のことをするように力が与えられている。すべてのことは、聖徒たちと、聖徒たちを管理する人々に主が常に課しておられる厳格な規律に従ってなされる。中央幹部が就いている職は高尚で崇高なものであるが、それらの職に就いている個人は、教会のほかの兄弟たちと同様、ごく普通の人である。教会員は十分に資格があり、訓練されているので、教会員の中には、召され、支持され、聖任されるならば、教会のほとんどの重要な職に就き、十分に奉仕できる兄弟がたくさんいるのである。」²

さらに、「預言者」の項で、このように書きました。「預言者は靈感を受ける偉大な人であるが、たとえそうであっても、人類全般に共通な不完全さを持った、死すべき人間である。自分の意見や先入観を持ち、靈感を受けずに自分の問題に取り組みなくてはならない場合も多くある。ジョセフ・スミスはこのように記録している。『ミシガンから来た兄弟と姉妹に会って話した。彼らは、「預言者はいつも預言者である」と考えていた。しかし、預言者は預言者として行動するときのみ預言者であるとわたしは述べた。』³

このように、預言者でさえも、御霊によって靈感を受けるのでなければ、その意見や見解には誤りが含まれることがあります。靈感を受けた聖文や言葉は、このように、御霊によって靈感を受けたものとして受け入れるべきです。しかしこのような問題があります。パウロは歴史上有数の偉大な神学者であり預言者でした。しかし、主の御心と完全には一致していないある考えを持っており、その幾つかを書簡の中に書き記しています。しかし賢明で思慮深いパウロは、それらは個人的見解であり、「これはわたしの考えである」と述べています。そのように自分の意見を述べた後で、「さて、これは主の考えである」としています。パウロの見解や個人的意見は必ずしも完全と言えるものではありませんでした。

預言者は人間ですが、靈感の霊を受けて

行動するとき、預言者の語ることは神の声となります。しかしそれでもなお、預言者は死すべき人間であって、個人的な意見を持っており、また持つ権利があります。預言者は偉大な知恵と判断力を持っているので、預言者の見解は普通の人の見解よりも優れているかもしれません。しかし、靈感を受けなければ、また啓示に従わなければ、教会のほかの会員と同じように、誤った考えを持つこともあるのです。

中央幹部が靈感の霊を受けて話しているかという心配をする必要はまったくありません。それは必ず分かります。ジョセフ・スミスが語った有名な言葉の一つに、そのことについて触れたものがあります。「主がジョセフに明らかにされることは何でも、十二使徒をはじめ、最も目立たない会員や最も新しい会員に、彼らが堪えられるようになった時点で明らかにされる。」⁴

まったくそのとおりです。パウロもこれと同じ教義を教えています。パウロは「ひとりずつ残らず預言をすることができる」また「預言することを熱心に求めなさい」と述べています(1コリント14:31, 39)。すべての教会員、すべての教会組織は啓示を受けることができるはずで、啓示は、宣教師やビショップなどの選ばれた少数の人だけのものではありません。わたしたちは啓示を受けるべきです。皆が使徒や預言者のようになるべきなのです。■

「質疑応答」『聖徒の道』1973年1月号、322 - 324の記事を基に編集。原文(英語)の句読点および大文字は現代の用法に修正

注

1. *History of the Church*, 第2巻, 302
2. *Mormon Doctrine*, 第2版(1966年), 309
3. *Mormon Doctrine*, 608
4. *History of the Church*, 第3巻, 380参照



**すべての教会員は
啓示を受けることが
できるはずで**

**啓示は、宣教師やビショップなど
選ばれた少数の人だけのもの
ではありません。**

**わたしたちは
啓示を受けるべきです。**



力を合わせる

パレルモ家に
双子として
生まれた

ルシアとマリアノは、
オリンピック出場の
夢に向かって
努力する過程で、
自分一人では
最も大切な目標を
達成できないことを
学びました。

上——2004年アテネ
オリンピックを前に、
レースで競う
ルシアとチームメート

アダム・C・オルソン

教会機関誌

マリアノ・パレルモとチームメートの
こぐボートが、1,000メートル地点
をトップで通過したとき、マリアノ
の興奮は最高潮に達していました。2003年
度アルゼンチン全国ボート競技選手権大会
の男子ペアに出場したマリアノが、夢の優
勝を勝ち取るまで残り半分です。このレー
スに勝てば、2004年にギリシャで行われ
るアテネオリンピックの予選に出場する資
格を得るチャンスも巡ってきます。

二人は力強いリズムに乗り、完璧な調和
の取れた強いストロークで水をとらえると、
ボートは先頭を切って進んで行きます。

ところが数百メートル進むと、疲れてき
たチームメートのペースが落ち始めまし
た。興奮していたマリアノの胸に不安がよ
ぎります。

マリアノは、さほど遠くない位置につけて

いる後続のボートを見て思いました。2番手
を振り切ってゴールできるだけの差はつい
ているだろうか。

「大の仲良し」

その日、マリアノの双子の姉ルシアも、
大切な女子ペアのレースをすぐ後に控え
ていましたが、弟を応援することに決めて
いました。マリアノのチームがぐんぐんほ
かのボートを引き離すのを見たときはう
れしくて身震いしましたが、ペースが落ち
始めると心配になりました。

パレルモ家に双子として生まれたルシ
アとマリアノはいつも仲良しでした。年が
一緒に、たいてい同じ活動に参加してい
たので、二人はいつも一緒でした。

「ミューチャルもセミナーも学校も一
緒です」とルシアは言います。「もう大き
くなったから前とは少し違うけど、今でも
一緒に練習しますよ。」

アルゼンチンのブエノスアイレス・リトラ



ルステークのパチェコワードに集う二人は、ほかの関心事でも共通点があります。どちらも手を使う作業が好きで、ルシアは手芸や裁縫、マリアノは車をいじるのが大好きです。

「わたしは料理も好きです」とルシアは言います。

「ぼくは食べるのが好きだから、二人はいいコンビですね」とマリアノは笑います。「姉と一緒に料理をするのが好きです。ぼくは上手じゃないけど、楽しいですね。」

ほんとうに、ルシアとマリアノは気が合います。「わたしたちは何でも話せます」とルシアは言いますが、マリアノによると、たいていの人は二人が双子だということが分からないのだそうです。二人は似ていないのです。

「それに、相手の考えていることは分かりません」とルシアはふざけて言います。双子は相手の考えが分かると、時々言われるからです。「ですが、学校でもレースでも、片方に何かが起こるともう片方にも大きな影響があります。わたしたちは大の仲良し。すばらしいことです。」

人生は団体競技

マリアノはチームメートのペースが落ちてきたのを感じましたが、自分にどれほど力が残っていても、役に立たないことが分かっていました。もしマリアノがチームメートよりも強く、または速くこいだとしたら、ボートはバランスを失って進路からそれてしまうのです。

マリアノはチームメートのペースに合わせてながら、追いつけを始めたほかのボートを見ました。

双子のルシアとマリアノには多くの共通点があります。その一つは、一生懸命練習し、目標に到達するために自分のできるだけの努力をしようとする強い意志です。しかし、チームで行うボートレースでは、個人の力だけでは1番にはなれません。チームメートと力を合わせなくては勝てないということを二人は知っています。

「ボートレースで大切なのは一致です」とマリアノは言います。「チームが2人であろうと、4人、8人であろうと、心を一つにしなくてはなりません。」

「もし力を合わせないと……」とルシアが言いかけると、「ほんとうに」とマリアノが言葉を挟みます。

そしてルシアが締めくくります。「ボートはうまく進まないんです。」



賞を得るには
個人の努力
だけでなく
チームワークが
必要だったように、
天の御父のもとへ帰る
といういちばん大切な
目標を達成するには、
救い主を信頼し、
福音を勤勉に実践する
必要があることを
ルシアとマリアノは
知っています。

二人はこの原則を、ボートの選手としてだけでなく、双子としても、また教会員としても理解しています。

「チームが同じ目的をもって進めば、達成するのはずっと簡単です」とマリアノは言います。「それは家族にも当てはまります。わたしたちには永遠に一緒にいるという同じ目標があります。それがあると、とても大きな助けになります。」

力を合わせることは、ボートをこぐときだけでなく、イエス・キリストのようになり、天の御父のもとに戻るといっばん大切な目標を達成するためにも欠かせないと二人は分かっています。主はこのように言っておられます。「一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」(教義と聖約38：27)

人生は個人競技ではなく団体競技であるということを学ぶと、わたしたちはそれぞれ、避けて通れない霊的な決断に迫られます。

だれに従うか

2番手のチームがマリアノのボートに並んだ

とき、マリアノは自制心を強く働かせて、できるかぎり強くこぎたいという気持ちを抑えなければなりません。ゴールは目前でしたが、自分のペースでこげば悲惨な結果を招くことをマリアノは知っていました。速度が落ちるだけならいい方で、最悪の場合には進路を外れ、失格にもなりかねないからです。

目標を達成するために、自分よりも他人のペースに合わせるという選択は、この世の人生にも当てはまる重要な原則です。わたしたちは、自分一人の力だけで天の御父のもとに戻ることにはできないのです(ローマ3：23参照)。

幸いなことに、救い主は贖罪を通して、御父の待っておられるゴールに到達する方法を備えてくださいました(アルマ7：11-12参照)。そして、わたしたちと同じボートに喜んで乗ってくださったのです。

しかしボート競技と同じように、賞を得るには、主と歩調を合わせて進むのを妨げるようなものは何でも、進んで捨て去らなくてはなりません。^{あがな}贖いとは、和解する、または調和した状態に戻るという意味です。調和を得るには、罪をすべて捨て(アルマ22：18参照)、この世の願望を退け、主の御心^{みこころ}を行う(モーサヤ3：19参照)必要があります。

それはいつも簡単にできることではありませんが、救い主は「わたしたちの参加すべき競走」(ヘブル12：1)を御存じです。また、御父のもとへ帰るために、わたしたちに何が必要かをはっきりと知っておられます。

もし自分自身の方法で物事を行うことを好み、主に従わないなら、わたしたちは調和を失ってしまいます。そして進歩の速度を落とすか、もしくはレースから脱落する危険にさらされてしまうのです。

力を合わせれば、より多くのことを達成できる

運動競技と同様、人生においても、一人で行くことが真の自由を得る道であると信じて、自分自身のペースで進もうとする人がいます。イエス・キリストとともに歩めばもっと多くのことを達成できるということが分からずに、自分一人で人生を歩む方を選ぶのです(マルコ10：27参照)。

ボート競技の世界では、「チームで力を合わせてこぐ方が、一人でこぐよりもずっと速く進む」

ことは周知の事実だとルシアは説明します。

男子シングルスカルで優れた選手は、2,000メートルの標準コースを自己ベストのペースでこぐと7分を切ります(世界記録は6分35秒40)。しかし、その選手も8人のチームでこげば、自分より遅いチームメイトと組んだ場合でも、もっと速く進むことができるのです。8人のチームの世界記録は、5分19秒85です。

一人でこぐ選手にとって一致団結したチームを打ち負かすことが難しいと同様に、救い主がおられなければ、わたしたちは永遠の目標を達成できないのです。

勝つことも、負けることもある

マリアノとチームメイトは決してあきらめませんでした。ゴール直前で抜かれてしまい、結局は2位に終わりました。

レース終了後、ルシアはマリアノがボートを引き上げるスロープの所で待っていました。自分のレースに集中しなければならないときでしたが、マリアノの失意の涙を見ると、彼女も泣きだしてしまいました。

「どんなに頑張ってきたかを知っていたので、落胆し切った姿を見るのは耐えられませんでした。あんな弟を見たことはこれまで一度もありませんでした。」

マリアノの悲しみをルシアは一緒になって受け止めました。やっとのことで二人を引き離したルシアのコーチは、彼女が自分のレー

スに集中できないのではないかと心配しました。しかし、大舞台に立ったルシアとチームメイトはレースに勝利し、女子ペアで優勝を飾りました。さらに南アメリカ選手権大会も制覇し、2004年オリンピックへの出場資格を獲得したのです。

二人は落胆したマリアノの悲しみを受け止め合ったように、一緒になってルシアの達成した偉業を喜び合いました。

「姉がオリンピックに出場できると決まったとき、すごくうれしかったです。まさに努力の賜物です」とマリアノは語っています。

キリストとともに進めば、だれもが勝つことができる

オリンピックに出場したルシアとチームメイトは17位に終わりました。マリアノのときと同じく、ルシアも夢に見たとおりの成績を残すことはできませんでした。それでも二人が目標を下げることはありません。当面はオリンピックでのメダル獲得を目指していますが、最終的な目標は永遠の命を得ることです。

どちらの目標を達成するにも犠牲が必要です。そして、進んで人と一致し、努力することが求められます。

この世では、それぞれのチームが幾ら団結していても、賞を得るのは1位の人だけです(1コリント9:24参照)、主が与えてくださる賞はふさわしい人すべてに授けられます。ニー

ファイは「たとえすべてではなくても、わたしたちの多くの者が御父の王国に救われるように」と述べています(2ニーファイ33:12, 強調付加)。しかし、わたしたちはまず、主に従うためにこの世的な願望を犠牲にし、「キリストとの和解を得」なくてはなりません(2ニーファイ33:9)。

ルシアとマリアノは、人生で最も大切なレースに勝てるだけの信仰を持ち、犠牲を払いたいという希望において一つとなっています。■





信仰によって 学ぶ望みを持つ

十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

聖文は、御^{みなま}霊の力によって福音の真理を説くよう繰り返し教えています(教義と聖約50:14参照)。わたしたち教会員の大半は、親として、また教師としてこの原則を知っており、適切に応用しようとしています。しかし、確かに重要な原則ではありませんが、これはもっと大きな霊的パターンの、わずか一つの要素にすぎません。わたしたちは信仰によって学問を求めるとも、繰り返し教えられています(教義と聖約88:118参照)。御霊によって教えることと信仰によって学ぶことは対となる原則です。わたしたちはこの二つを理解し、常に並行して応用するよう努力しなければなりません。

とかくわたしたちは、生徒が信仰によって学ぶことよりも、教師が御霊によって教えることを重視しがちです。御霊によって教えることについての知識ばかりが増えるのです。教えることについての原則と過程、そして学ぶことについての原則と過程は、そのどちらもが霊的に欠かせないことは明らかです。今後世界がますます混乱し激動していくことを考えると、信仰によって学ぶ力を伸ばしておくことは、あらゆる人にとって欠かせなくなるでしょう。信仰によって霊的な知識を増し加え、実生活に応用

しようとしていくなれば、わたしたちは個人、家族、教会として霊的な強さや導き、守りが得られるようになるのです。

ニーファイはこう教えています。「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力が〔教え〕を人の子らの心に伝える……。」(2ニーファイ33:1) 注目すべきは、御霊の力は教えを心に伝えるのですが、それが常に心に入るとは限らないということです。教師は大いなる御霊の力を用いて効果的に説明し、論証し、説得し、証^{あかし}することができます。しかし、結局は生徒の側で心に取り込もうとしなければ、教えの内容も、聖霊による証も彼らの心にしみ込みません。信仰によって学ぶことによって、心の扉が開くのです。

行動を促す力——主イエス・キリストを信じる信仰

使徒パウロは信仰を「望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである」と定義づけました(ヘブル11:1)。アルマは、信仰とは物事を完全に知るのではなく、もし信仰があればわたしたちは「まだ見ていない〔けれども〕真実のことを待ち望む」と述べています(アルマ32:21)。また、『信仰に関する講話』(Lectures on Faith〔英語〕)には、信仰とは「啓示された宗教における第一の原則であり、あらゆる義の土台であって」、「すべての英知ある者



今後世界が
ますます混乱し
激動していくことを
考えると、
信仰によって学ぶ力を
伸ばしておくことは、
あらゆる人にとって
欠かせなくなるでしょう。



しんちゅう
真 鑰の版を
 取りに
 エルサレムに
 戻ったニーファイは、
 未来に対する
 霊的な確信をもって、
 「前もって
 自分のなすべきことを
 知らないまま、……
 進んで」行きました。

に行動を促す力である¹とあります。

これらの教えは、信仰の3つの基本要素、つまり、(1)待ち望む事柄が真実であることを確信させる、(2)まだ見ていないことを確認させる(または確証を与える)、(3)すべての英知ある者に行動を促す力となる、ことを強調しています。ここで、救い主を信じる信仰におけるこの3つの要素を、未来に備え、過去を振り返り、現在において行動するという観点から説明します。信仰が、未来、過去、現在の事柄に同時に作用する点に注目してください。

待ち望む事柄を確信させる信仰は、未来に目を向けさせます。確信は、神を正しく理解し、神を信頼することにより得られます。そしてこの確信があれば、不確かで困難に満ちた状況の中でも、救い主に仕えながら「力強く進む」(2ニーファイ31:20)ことができるようになりますのです。

例えば、真鑰^{しんちゅう}の版を取りにエルサレムに戻ったニーファイは、まさにこの種の、未来に

対する霊的な確信をもって、「前もって自分のなすべきことを知らないまま、……進んで」行きました(1ニーファイ4:6-7)。

キリストを信じる信仰を持てば必然の結果として、キリストを通して贖いと昇栄^{あがな}を得ることを希望するようになります。確信と希望があれば、光の照らすところから、暗闇^{くらやみ}である未知の領域の入り口まで歩いて行き、足を踏み出すことができます。光が移動して来て道を照らしてくれることを望み、信じるからです。² そのような確信と希望が一つになって、現在の行動を促してくれるのです。

見ていないことを確認する(または確証を得る)信仰は過去に目を向けさせます。そしてその過去の事実から、わたしたちが示した神への信頼が正しかったということ、また、見ていなくても真実であると信じていた事柄がまさにそのとおりだったということが分かります。確信と希望をもって闇に足を踏み入れたとき、光が突

際に移動して道を照らしてくれたという確証を得るのです。信仰が試された後に証を得ると(エテル12:6参照),それは見ていない事柄に対する確認となり,確信が強められるのです。

この確信と行動と確認(確証)は,同時進行で互いに影響を及ぼし合います。この3つはらせん状のコイルと同じで,渦を巻いて上昇しながら,膨らみ,広がっていきます。確信と行動と確認(確証)という信仰の3つの要素は,それぞれ独立しているのではなく,相互に作用しながら絶えず上昇するのです。この上昇過程を促す信仰は発展し,進化し,変化していきます。不確かな未来に再び立ち向かうとき,確信は行動を促し,行動が確証を生み出して,それによって確信がさらに増します。こうして,教えに教え,訓戒に訓戒を加えて,ここにも少し,そこにも少しと,自信が増していくのです。

確信と行動と確認(確証)が相互に作用することについての,力強い実例を紹介しましょう。イスラエルの子らが,ヨシュアに導かれて契約の箱を運んでいたときのことで(ヨシュア3:7-17参照)。ヨルダン川にやって来たイスラエルの民は,川の水が分けられ,乾いた地を歩いて渡ることができるという約束を受けました。興味深いことに,イスラエルの子らが川岸に立って何かが起こるのを待っている間は,川の水は分けられません。足の裏を水でぬらして初めて,水が分けられたのです。つまりイスラエルの民の信仰は,水が分けられる前に水に入って行くことによって示されたのです。彼らは待ち望んでいることを確信してヨルダン川に入りました。民が前に進むと,水が分けられました。乾いた土を渡り切った民は,振り返り,目で見ていない事柄に対する確証を得ました。こうして,まだ見ぬ事柄を確信する信仰により行動し,見ていない事実に対する確証を得たのです。

真の信仰は,主イエス・キリストを土台とし,また中心としています。そして常に行動を促します。行動に駆り立てる信仰については,よく知られている数々の聖句の中で繰り返し強調されています。

「^{れいこん}霊魂のないからだ^{れいこん}が死んだものであると同様に,行いのない^{れいこん}信仰も死んだものなのである。」(ヤコブの手紙2:26,強調付加)

「そして,^{みことば}御言を行^{みことば}う人になりなさい。……ただ聞くだけの者となつてはいけな^{みことば}い。」(ヤコブの手紙1:22,強調付加)

「目を覚まし,能力を尽くしてわたしの^{みことば}言葉を^{みことば}試し,ごくわずかな^{みことば}信仰でも^{みことば}働かせ……。」(アルマ32:27,強調付加)

行動を促す信仰は,霊的な真理を学んで生活に応用する

うえで最も大切な要素です。

信仰によって学ぶ望みを持つ——主体性をもって行動する

すべての英知ある者に行動を促す力という意味での信仰は,福音を学ぶこととどのような関係があるのでしょうか。信仰によって学ぶ望みを持つとは,どういう意味でしょうか。

神が創造されたものはすべて,作用するものと作用されるものに分けられます(2ニーファイ2:13-14参照)。天の御父の息子,娘として,わたしたちには,選択の自由という^{たまたもの}賜物,つまり個々に行動する能力と力が与えられています。選択の自由(英語ではagency[エージェンシー])を与えられているわたしたちは,作用する者(英語ではagent[エージェント])です。つまり受け身でいるだけではなく,主体性を持つことがまず必要であり,霊的な知識を得て応用するときは特にそうしなければなりません。

信仰から学ぶことと経験を通して学ぶことは,御父の幸福の計画の中核を成す二つの特色です。救い主は贖罪によって道徳的な選択の自由を守られ,人が信仰によって行動して学ぶことを可能としてくださいました。御父の計画に逆らったルシフェルは,人の選択の自由を奪うことによって,わたしたちを受け身でしか学べない者にしようとした。

天の御父がエデンの園でアダムに言われた,「あなたはどこにいるのか」という言葉を考えてみてください(創世3:9)。御父はアダムがどこに隠れているのか知っていたにもかかわらず,そうお尋ねになったのはなぜでしょうか。愛と知恵に満ちた御父は,御父の子供がただ受け身で学ぶのではなく,主体性をもって学習できるようにされたのです。御父は,わたしたちの多くがついそうしてしまうような,不従順な子供への一方的な説教はされませんでした。御父は,アダムが主体性をもって行動し,選択の自由を適切に使って学ぶことができるように助けられたのです。

ニーファイは,父親のリーハイが命の木の示現で見たことの意味を知りたいと願っていました。興味深いことに,主の御霊がニーファイに教えるとき,初めにこう質問されました。「見よ,あなたは何を望んでいるのか。」(1ニーファイ11:2)御霊は,明らかにニーファイの望みをよく知りながら,なぜそう尋ねられたのでしょうか。聖霊は,ニーファイが学ぶ過程においてただ教えを受けるのではなく,主体的に学ぶことができるように助けておられたのです。ニーファイ第1書第11章から14章を読むと,御霊は,学ぶ過程に有効な二つの要

素を通してニーファイを教えられたことが分かります。その要素とは、質問をすること、そして「見る」ように促すことです。

このような例から、わたしたちは学習者として、作用されたただ御言葉を聞くだけでなく、主体性をもって御言葉を行う者となるべきであることが分かります。わたしたちは主体性をもって行動し、信仰によって学ぼうとしているでしょうか。それとも受け身になって、教えられるのを待っているだけでしょくか。わたしたちが仕える子供、青少年、大人も、主体性をもって信仰によって学ぼうとしているでしょうか。それとも教えられるのを待っているだけでしょくか。わたしたちが奉仕する人たちは、信仰によって学べるようにわたしたちから励ましと助けを受けているでしょうか。わたしたちは皆、熱心に求め、捜し、たたかなくなくてはならないのです(3ニーファイ14：7参照)。

正しい原則に従って行動することによって選択の自由を働かせる学習者は、聖霊に心を開きます。そして聖霊からの教え、聖霊による証の力、そして聖霊による確認の証を受けることができます。信仰によって学ぶ望みを持つには、外からの影響を受けるだけでなく、霊的、精神的、肉体的な努力が必要です。信仰に鼓舞されて行動し、真心をこめて努力し続けるとき、わたしたちは聖霊から教えを受けて学びたいという意欲を天の御父とその御子イエス・キリストに示しているのです。このように、信仰によって学ぶ望みを持つとは、道徳的な選択の自由を働かせて、待ち望む事柄への確信に基づいて行動し、唯一まことの教師であられる主の御霊から、見ていない事柄への確証を受けることなのです。

求道者が信仰によって学べるよう、宣教師がいろいろと助けているところを思い浮かべてください。モルモン書を読んで祈る、教会に出席する、戒めに従うなどの霊的な決意をしてそれを守るには、求道者が信仰を働かせて主体的に行動しなければなりません。宣教師の基本的な務めの一つは、求道者が決意をし、それを守るように助けること、すなわち信仰によって行動し、学べるように助けることです。教え、勧め、説明することは大切ですが、それだけでは回復された福音が真実であるという証を伝えることはできません。求道者が信仰に基づいて行動を起こし、心の扉を開くまで、聖霊はその心に確認の証を与えることがおできにならないのです。宣教師が御霊の力によって教えられるようになる必要があるのは明らかですが、同じように重要な責任として、宣教師には、求道者が信仰によって学べるように助ける必要があるのです。

わたしの言う学習とは、単に情報を認識または理解して記憶し、必要なときに思い出すこととは次元が違います。わたしの言う学習をした人は、生まれながらの人を捨て(モーサヤ3：19参照)、心に変化が生じ(モーサヤ5：2参照)、主に帰依して、二度と道を踏み外さなくなります(アルマ23：6参照)。信仰によって学ぶ望みを持つには、「心と進んで行く精神」(教義と聖約64：34)の両方が必要です。信仰による学習は、まず聖霊によって神の言葉の力が心に伝えられ、さらに御言葉の力が心の中にまで入った結果できることです。教師が講義や論証や実験を行っただけでは、生徒が信仰によって学習できるようにはなりません。むしろ、自分で知識を得るために生徒自身が信仰を働かせ、主体的に学ばなければならぬのです。

少年ジョセフ・スミスは、信仰によって学ぶ望みを持つとはどういうことかを本能的に理解していました。新約聖書のヤコブの手紙から、祈りと信仰に関する聖句(ヤコブの手紙1：5-6参照)を読んだことは、ジョセフ・スミスの生涯の中で最も有名なエピソードの一つです。この聖句に靈感を受けたジョセフは近くの森に入り、霊的な知識を求めて祈りました。ジョセフがこのことについて頭で考え、心の中に思い巡らしていたという点、またその疑問への答えを求めて森に入ったという点に着目してください。明らかに、ジョセフは「信仰をもって願ひ求め」(ヤコブの手紙1：6)、そして行動する備えをしていたのです。

「この言葉の争いと見解の騒動の渦のただ中であって、わたしはしばしば心に問うた。『何をしなければならないのだろうか。これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。』

わたしが主にお伺いしようとした目的は、自分が加わるべき教派を知るために、すべての教派のうちのどれが正しいかを知ることであった。そこで、わたしは我に返って物を言えるようになるやいなや、わたしの真上で光の中に立っておられた方々に、すべての教派のうちのどれが正しいか……、また自分はどれに加わるべきかを伺った。」(ジョセフ・スミス一歴史1：10, 18)

ジョセフの質問が自分の知るべきことだけでなく、自分が行うべきことにも重点を置いていた点に注目してください。そして最初の質問は、何をすべきかという、行動に関する

ものでした。単にどの教会が正しいかと祈ったわけではありません。どの教会に加わるべきかと尋ねたのです。ジョセフは信仰によって学ぶ望みを持つために森へ行きました。行動する決意ができていたのです。

信仰によって学び、霊的な真理を生活に応用するのは最終的には個人の責任です。今もこれからも生活続けるこの世界において、信仰によって学ぶ責任はますます重要になっていきます。わたしたちは、教師の助け、教授法、テーマ、工夫されたレッスンによって、何を、いつ、どのように学ぶかを知る助けを得られますが、それですべてを学べるわけではありません。

実際、現世に生きるわたしたちにとって、信仰によって学ぶ望みを持つことは簡単ではありません。わたしが説明しようとしているこの学習の過程と結果を、預言者ジョセフ・スミスが見事に要約しています。あるとき、教えを願った十二使徒に対し、ジョセフはこう答えました。「真理と知恵を得る最善の方法は、書物ではなく、祈りによって神のもとへ行き、神から学ぶことです。」³

ジョセフが
このことについて
頭で考え、
心の中に思い巡らして
いたという点、
またその疑問への
答えを求めて
森に入ったという点
に着目してください。
明らかに、ジョセフは
「信仰をもって願い求め」、
そして行動する備えを
していたのです。





ボイド・K・パッカー
会長はこう
教えています。
「証は実際に
証をしていく中で
得られるもの……です。
……自分が
持っているものを
与えるなら、
その代わりに、
さらに多くが
与えられるのです！」

別の折に預言者ジョセフはこう述べています。「ほかの人々の経験談や、ほかの人たちと与えられた啓示を読んだとしても、自分の状態や自分と神との真実の関係について、わたしたちが完全に理解することは決してできないのです。」⁴

教師への意義

信仰によって学ぶ望みを持つことに関するこれらの真理は、親にとっても教師にとっても大きな意義があります。その中から3つについて考えてみましょう。

意義1 聖霊は御父の送られる教師であられる。

聖霊は神会の第3の御方であり、教師であり、あらゆる真理の証人であられます。十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老(1862-1933年)はこう述べています。「聖霊が人類の間で働かれるときの職務は聖典に載っています。聖霊は御父から遣わされる教師であって、聖霊の教えを受けるにふさわしい者たちに、

霊が進歩するのに必要なすべてのことを明らかにされます。」⁵

正しく求めるならば、聖霊は教師となって、学ぶ人の心に入ることがおできになるということを常に覚えておきましょう。わたしたちには、慰め主である御霊によって福音を宣べ伝える責任がありますが、聖霊により、また聖霊を通して(教義と聖約50:14参照)その責任を果たすと、その結果としてわたしたちは信仰によって学ぶ望みを持つことができます。わたしたちはこの点で、光ファイバーケーブルの素材である薄く長いガラス繊維のようなものです。光信号を遠くまで効果的に、また効率よく伝えるには、このガラス繊維の純度が高くなければならないのと同じように、わたしたちも、主の御霊がわたしたちを通して機能できるようふさわしさをもち、それを維持しなければなりません。

しかし忘れてはならないことは、奉仕を行うわたしたちはあくまでも導管、つまり伝達経路で

あって、光そのものではないということです。「語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中であって語る父の霊である。」(マタイ10:20)語る者は、わたしでも皆さんでもないのです。実際、わたしたち教師が自分の提示するメッセージ、教授法、態度によって、故意に生徒の関心を自分自身に引きつけようとするなら、それは聖霊の効力を教えることを妨げる、一種の偽善売教になるのです。「真理の御霊によってそれを宣べ伝えるか、それとも何かほかの方法によって宣べ伝えるか。もしもそれが何かほかの方法によらずれば、それは神から出てはいない。」(教義と聖約50:17-18)

意義2 教師は、信仰によって学ぶ望みを持つよう備えさせ、励ますときに、最大の効果を上げることができる。

「魚を与える人は1回分の食事を与えるが、魚の釣り方を教える人は一生分の食物を与える」という有名なことわざがあります。親または福音の教師としてわたしたちに課せられた責任は、魚を与えることではなく、一人一人に「魚の釣り方」を学ばせて、霊的に自立できるよう助けることです。この目的を成し遂げるには、学ぶ人が正しい原則に従って学べるように、つまり行うことによって学べるように勧めなければなりません。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、……この教が神からのものか……わかるであろう。」(ヨハネ7:17)

1875年、教会の若い男性を組織する召しを受けたジュニアス・F・ウェルズ兄弟は、ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)から次のような助言を受けました。中に書かれているこの意義に注目してください。

「集会では出席者名簿の最初から始めて、時間の許すかぎりできるだけ多くの人に証を述べてもらってください。次の集会では、前の集会で終わったところから始め、全員が参加して、立って発言する練習ができるようにしてください。述べるほどの証がないと言う人がたくさんいるかもしれませんが、立ち上がらせてください。すると、彼らは以前に考えたことのない多くの真理について、語る言葉を主から与えられることに気づくでしょう。ひざまずいて証を祈り求めているときよりも、立ち上がって証を述べようとするときの方が、証が得られるのです。」⁶

今日も、十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー会長が同じような勧告をしています。

「次の原則をぜひ覚えてください。つまり、証は実際に証をしていく中で得られるものであるということです。霊にかかわる知識を求めていると、いつか、哲学者の言う『信仰の飛躍的成長』を経験する時が来ます。そのとき人は、光と闇の境目

までやって来て、闇の中に足を踏み入れてみると、1、2歩先が照らされるという経験をするのです。聖文に記されているように、確かに、『人の魂は主のともしび』なのです(箴言20:27)。

本を読み、人の話を聞いて証を得るのは最初の段階として必要です。しかしそれだけでは、自分が証したことが真実であるという確証を、御霊によって自分の心に得るという経験をすることはできません。証は、人に分かち合うときに得られるということが理解できるでしょうか。自分が持っているものを与えるなら、その代わりに、さらに多くが与えられるのです!」⁷

わたしの人生に大きな影響を与えてくれた教師たちには、共通する特徴があります。彼らは皆、信仰によって学ぶ望みを持ってよう助けてくれました。難しい質問に対して、簡単な答えをくれることはありませんでした。実際のところ、何の答えもくれませんでした。その代わりに、自分で答えを見つけられるように、そのための行動を起こせるように、道を示してくれました。教師の取ったそのような方法にいつも感謝していたわけではありません。しかし、やがて様々な経験をするにつれ、人からももらった答えは忘れやすく、短い間しか記憶にとどまらないということが分かってきました。その反面、信仰を働かせて自分で見つけたり、たどり着いたりした答えは通常、生涯にわたって心に残ります。人生で最も大切な教訓は、教えられるものではなく、自分で得るものなのです。

わたしたちが祝福として受け、真実であると心で確認した霊的な理解を、単純にだれかに与えることは不可能です。信仰によって勤勉に学ぶという代価を支払わなければ、その知識を得て「自分のものにする」ことはできないのです。そのような努力をして初めて、頭で理解したことが心で感じられるようになります。そのようにして初めて、ほかの人の霊的な知識や経験に依存する段階を卒業して、自分だけの祝福を得られるようになります。そのようにして、来るべきことへの霊的な備えができるのです。わたしたちは「研究によって、また信仰によって学問を求め」なければなりません(教義と聖約88:118)。

意義3 信仰によって学ぶ望みを持つように人を助けるとき、自分の信仰が強められる。

わたしたちが行動し、キリストへの信仰を働かせるとき、「あなたがたにすべてのことを教え、……ことごとく思い起させ[て]」くださる聖霊は(ヨハネ14:26)、わたしたちが学べるよう熱心に助けてくださいます。興味深いことに、この神聖な助けが最もよく与えられるのは、家庭や教会の割り当てで教えているときなのです。パウロは次のようにはっきりとロー

マ人に述べました。「なぜ、人を教えて自分を教えないのか。」(ローマ2:21)

教義と聖約の次の聖句には、熱心に教えるなら、天の恵みと教えが与えられると記されています。

「また、あなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。

熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。それは、理論において、原則において、教義において、福音の律法において、あなたがたが理解する必要がある神の王国に関するすべてのことにおいて、あなたがたがさらに完全に教えられるためである。」(教義と聖約88:77-78, 強調付加)

これらの聖句にある祝福が、特に教師のために述べられたものであることを心に留めてください。「熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。」それは、教師が教えを受けるためなのです。

同じく第88章の122節にも、この原則がはっきりと説明されています。

「あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして、全員が同時に語ることなく、一時に一人を語らせて、すべての者が彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは、すべての者が語って、すべての者が互いに教化し合うように、またすべての人が等しい特権を持つようにするためである。」(教義と聖約88:122, 強調付加)

皆が威厳をもって秩序正しく語り、また皆が耳を傾けるときに、すべての人が教化されます。個人やグループで救い主への信仰を働かせるとき、主の御霊による教えと力が与えられるのです。

信仰によって学ぶ望みを持つ——最近の実例から

2005年8月、わたしたちはゴードン・B・ヒンクレー大管長から年末までにモルモン書を通して読むという勧めを受け、そこから多くの祝福を得ました。ヒンクレー大管長は、この簡単な読書プログラムを忠実に実行するなら、生活や家庭の中に、「さらに豊かに主の御霊が注がれるようになるでしょう。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分かるようになることでしょう」⁸と約束しました。

この靈感に満ちた大管長からの勧めは、信仰によって学ぶ望みを持つことの典型的な例です。第1に、わたしたちは読むように命じられたり、強制されたり、要求されたわけではありませんでした。そうではなく、正しい原則に従って、作用する者として選択の自由を働かせるように勧められました。ヒンクレー大管長は靈感を受けた教師として、わたしたちに受け身ではなく、主体的に行動するように勧めたのです。最終的に勧めを受け入れるかどうか、終わりまで堪え忍んで達成するかどうかを決めるのは、各個人に任せられました。

第2に、ヒンクレー大管長は、読んで行動するように勧め、信仰によって学ぶ望みを持つよう、わたしたち一人一人を励ました。教会から会員に新しい教材が配られることはありませんでした。補足レッスンや授業、プログラムなども作成されませんでした。大管長会の勧めにこたえて救い主への信仰を働かせることにより、皆が自分のモルモン書を手に持ち、心の扉がさらに開かれました。そのようにして、唯一まことの教師であられる聖霊から教えを受ける備えができたのです。

信仰によって学ぶ望みを持つという責任はわたしたち一人一人のものです。世界がますます混乱し、騒然としている現在、この責任は以前にも増して大きくなるでしょう。この末日にあって、個人が霊的に成長し、教会が発展するには、信仰によって学ぶことが不可欠なのです。信仰によって学ぶ望みを持つために、一人一人が真に義に飢え渴き、聖霊に満たされる(3ニーファイ12:6参照)ように願っています。■

2006年2月3日に行われた衛星放送による教会教育システム教育者への講話を基に編集

注

1. *Lectures on Faith* (1985年), 1
2. ボイド・K・バッカー, "The Candle of the Lord," *Tambuli*, 1983年7月号, 27
3. *History of the Church*, 第4巻, 425
4. *History of the Church*, 第6巻, 50
5. *The Articles of Faith* (1924年), 162
6. ジュニアス・F・ウェルズ, "Historic Sketch of the YMMIA," *Improvement Era*, 1925年6月号, 715
7. 「霊的な知識の探求」『リアホナ』2007年1月号, 18参照
8. 「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号, 6

ナ』2002年11月号, 71 - 72)

心と意思を一つにして、 神の御手に使われる者となる



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

心と意思を一つにするとはどのような意味でしょうか。

1コリント 12：20, 27——「ところが実際、肢体は多くあるが、からだは一つなのである。……あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。」

大管長 ゴードン・B・ヒンクレ——「主はこう言われました。『もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。』(教義と聖約 38：27 参照) この崇高な一致こそ、真のキリスト教会の特質です。世界中の教会員がこの一致を心に感じています。わたしたちが一つであれば、わたしたちは主のものです。……わたしたちが一致してさらに強められますように。そうなれば、天の下のいかなる力もこの偉大な王国の進展を阻むことはできません。」「(もし一つとならず)『聖徒の道』1984年1月号, 8)

大管長第一顧問 マリオン・G・ロムニー管長(1897-1988年)——「人々が完全な福音に従って生活できるように助けるのは、この最後の神権時代に立てられた教会の

使命です。主の民は『心の清い者』となり、……神とともに歩むでしょう。彼らは心一つにし、精神一つにし、義に住むからです。また、彼らの中には貧しい者が一人もいないからです。」「(福祉の原則に添った生活をする)『聖徒の道』1982年4月号, 159)

心と意思を一つにするよう努めることは、主の御手によりよく使われる者となるに当たってどのように役立つでしょうか。

七十人会長会 D・トッド・クリストファソン長老

——「……まず自分自身の中で一致する必要がある[ります]。わたしたちは肉体と霊とから成り、時に……不一致や争いがあるのを感じます。……毎日、毎週、キリストの示された道に従って歩もうと努めるとき、わたしたちの霊は肉体に対して優位を主張し、内なる戦いは静まり、誘惑は力を持たなくなります。霊と肉体の一致はますます高まり、……肉体は……『神にささげる義の武器』に変えられるのです(ローマ 6：13 参照)。」「(彼らをもわたしたちのうちにらせるため)『リアホ



前中央扶助協会第一顧問 キャスリーン・H・ヒューズ——「主は『心と進んで行く精神』を求めておられます

(教義と聖約 64：34, 強調付

加)。……主はあらゆる

点で主に心を開くよう

に求めておられます。

そして『自分の命』

を得ようとせず、

『わたしの意思を

求め、わたしの戒

めを守ろうと』努め

るように、とおっ

しゃっています(ヒラマ

ン 10：4)。新たな心は、

できる限りのことを行

い、心と精神を御父に

ささげるときに得ら

れるものです。」「

(『小さなことから

ら』『リアホナ』

2004年11月号, 111)

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル長老(1926-2004年)——「霊

的な服従とは、意思と心の双方

が安定したときの……一致と交わりを

意味します。この状態に達すると決定

に要する時間は少なくなり、人に仕える

時間が多くなります。……神に心を

ゆだねることは、わたしたちの霊的成長

の最終段階です。ここに到達して初

めて、わたしたちは神の御手にあつて

十分に働けるようになるのです。神の

御手に使われる者となることを心から

願いながら、使われる者が指図を始

めたらどうでしょうか。」「(喜んで服従

する)『聖徒の道』1985年7月号, 72)



聖徒の道 GAINSBY NEVER FAILETH 1842
 クレリック・ゴードン・ヒンクレー
 マリオン・G・ロムニー
 ニール・A・マックスウェル
 © ARTBEATS

心の変化がもたらした 永遠の結婚

結婚を望んでいたのに、
非現実的な期待があったため
デートは失敗続きでした。

ジェームズ・ウェルチ

何年か前、自分が福音全般についての証^{あかし}を持っているものの、まだ完全に受け入れていない原則が幾つかあることを悟りました。例えば^{じゅうぶん}自分の一や知恵の言葉には何の問題もありませんでしたが、永遠の結婚の原則、つまりわたし自身の永遠の結婚に関して、悪戦苦闘していたのです。

失敗の繰り返し

結婚したくないということではありませんでした。むしろ、結婚したくてたまらなかったのです。または自分にそう言い聞かせていたのかもしれませんが。地元でもデートをしましたし、遠距離恋愛もしました。疲れ果てるほど絶え間なくデートをした結果、わたしは相手の女性の「欠点」と思えることを見つける天才になってしまったのです。わたしは恋愛関係を終わりにする理由をいつも正当化していました。しかも結婚する意思のないことを伝えないうち1年か2年付き合っただけで別れるといった具合です。そうこうしているうちに、数多くの失敗を繰り返したことで、どのように交際すればよいのかまったく分からなくなっていました。

わたしは帰還宣教師です。神殿に定期的に参入して

いましたし、主の導きを求めて断食して祈りました。ワードの召しも忠実に果たしていました。家族にもよく支えられ、ビショップとも定期的に相談して助言を受けていました。一時期、末日聖徒の優秀な心理学者の助けを借りたこともありません。しかし、どうしてもだめでした。どうしたら結婚できるのか、わたしには見当もつきませんでした。

わたしの境遇に同情する人たちは、「まだ『ぴったり合う人』に出会っていないだけだよ」と慰めてくれました。「思い切って一歩踏み出さなきゃ」という人たちもいました。しかし、疑問があまりにも多く、不合理な恐怖心も膨らんでいたため、一歩踏み出すことはどうしてもできませんでした。

奇跡でも起こらないかぎり、結婚は無理だと思いました。自分の人生に責任を負わなければならないことや、ビショップが代わりに問題を解決してくれるわけではないことも知っていましたが、新しいビショップが召される度に、今度は助けてもらえるかもしれないと期待を寄せていました。どのビショップもわたしを心配し、教会を離れずに奉仕を続けて最善を尽くしなさいと助言してくれました。

45歳のとき、ワードのビショップリックが変わりましたが、新



しいビショップの名前を聞いて失望してしまいました。召されたのは、わたしとまったく共通点のない人だったからです。愚かにも、次のビショップが召されるまで待たなければならないと内心決めつけていました。

率直な会話

それから間もない日曜日のことでした。神権会に向かっていると、このビショップが、神殿推薦状の面接をしたいので、今すぐビショップ室に来ることができるか尋ねてきました。わたしはビショップ室で、何をやってもうまくいかない、デートをしたどの女性にも我慢できない欠点があった、どうせこの世では結婚できないのだらうと、語り慣れた悲しい身の上話を始めました。

ビショップはわたしの愚痴には耳を貸さず、わたしの目をのぞき込んでこう尋ねました。「あなたは結婚したいですか、それともしたくないですか。」わたしは、結婚したい気持ちはあるが今はもう分からないと言わざるを得ませんでした。すると、ビショップは続けてこう言いました。「家に帰って、結婚したいのかどう

かよく考えてください。結婚したくないという答えなら、同情はしますが、デートをやめた方がいいでしょう。これ以上自分を責める必要ありません。結婚したいと思ったら、もう一度わたしのところへ来てください。これからどうしたらよいか考えましょう。」

その瞬間、ビショップの助言に従えば大丈夫だという、非常に強い印象を受けました。

わたしは厳粛な気持ちでビショップ室を後にしました。教会が終わって家に帰ると、短くも激しい葛藤かっとうの後で、自分はほんとうに結婚を望んでいる、という結論に達しました。確かに結婚したかったのです。わたしは、このビショップの助言なら何でも従おうという気持ちになっていました。

この決断が、結婚を目指すわたしにとって大きな転機となりました。何十年の間、わたしは中途半端な努力しかしてこなかったのです。まずは結婚だと思ふりをしながら、実際はそれほど結婚を優先していませんでした。都合の良いときだけ結婚について真剣に考えましたが、演奏家や大学教授としてのキャリアなど、

結婚に関して 心の中に 大きな変化を

経験し、

わたしの人生は
まったく違ったもの
になりました。

1997年5月22日、
わたしと妻のディアンは
カリフォルニア州
オークランド神殿で
結婚しました。



ジェームズ・ウェルチと妻ディアン、息子のジェームソンとニコラス。ウェルチ兄弟は自身の家族と結婚についてこう語っています。「10年前には想像できなかった充足感を得ています。」

大抵はほかのことを第一にしてきたのです。わたしに必要だったのは、どうしたら同じような意欲で結婚という目標に取り組めるかを知ることでした。

ビショップの指示

わたしは再び助言を求めて訪れましたが、このビショップほど率直に話してくれた人はいませんでした。山とあったわたしの言い訳には関心を示さず、ビショップはただこう言いました。「何がいけないのか、つまりいつもどこで相手と折り合いが悪くなるかを確認しましょう。それから、問題を解決しましょう。」わたしは初め戸惑いましたが、その率直さを新鮮に感じました。ビショップを信頼できると分かりました。これまですっかり身に付いてしまったパターンから抜け出すにはエネルギーと勇気が要りましたが、きっとできるという自信がだんだんわいてきました。

ビショップの最初の指示は、わたしがこれまで相手に不可欠だと思っていた単なる表面的な資質ではなく、(ビショップの言葉によると)信仰、誠実さ、善意といった、いつまでも変わらないほんとうに大切な資質を備えた伴侶を探すことでした。(それまでわたしの妻は金髪で歌声が美しく、しかも料理が並外れて上手で

なければならぬと思っていました。)わたしのすべきことは、御父がわたしたち一人一人に持っておられるような愛で、全力を尽くして相手の女性を慈しむということでした。

ビショップは、これまでの結婚を望む姿勢に欠陥があったことにも気づかせてくれました。わたしは相手の女性たちに問題があったと長年思い込んできましたが、その思い込みが正しくないことを認めました。問題はむしろ、わたし自身の間違った考え方と非現実的な期待にあったのです。ビショップは、デートをする際の新しいルールを幾つか決めました。

まず、生活を変える心構えをしなければなりません。自分の生活に慣れ切っていたため、頭では結婚を望んでいても、結婚することで自分の日常が乱されると思っていました。これまでとは別の方法で新たに始めなければならないこともあります。25年以上もの間、自分のやり方でやってきましたが、同じ失敗を繰り返し、うまくいかなかったことは明らかでした。45歳という年齢から見ても、わたしにデートできる期間がそれほど残されていないことも理解しなければなりません。

次に、デートの目的は単に楽しい時間を過ごすだけでなく、真剣に結婚したいと望んでいてその準備ができている相手を見つける時間であることを理解する必要がありました。単に人柄を知るだけでなく、その人の心を知るための時間にしなければならぬのです。

ビショップはまた、何回かデートをすれば、

自分が探している不可欠な資質が相手の姉妹にあるかどうか分かるだろうと教えてくれました。資質が見受けられなければ、別な人とデートを始めます。そして、これまでのような実りのない長い交際の繰り返しをやめるために、ビショップは驚くべき最後通告を突きつけました。真剣な交際が始まったら、結婚か拒絶、いずれかの決着がつくまで続けなければならないのです。適度な期間が経過したら、相手の女性が断わらないかぎり、わたしからは交際をやめることができません。決意をするよりは逃げてしまう方がいいというのがわたしのやり方だったのですが、今回はそれまで何度もしたような後戻りはできないのです。わたしはいつになく大胆に、その条件をのむことにしました。

わたしが学んだこと

わたしは幾つかのことが分かってきました。一つは、よく言う「相性が良い」というのは、正直で中身の濃い会話を通して分かるもので、最初からすぐに判断できるわけではないということです。これは多くの人々がしがちな誤解です。見た目で瞬間的に引かれるものがなければ、交際を始めようとしなない人が多いのです。独身の人の中には、真剣な話し合いや難しい質問を避けて、うわべだけの会話を好む人もいます。そういう人たちは、「ほんとうの愛」が芽生えれば現実の問題はどのようなわけか消えてなくなるという、はかない望みを持っています。実際はその逆です。最初に心を開いて話す練習をし、難しい問題の答えを見つける努力をして初めて信頼が生まれるのです。この信頼があれば恐れることはなくなります。不安になったり、優柔不断になったり、結局は二人の関係にひびが入ったりする原因は、恐れであることが多いのです。

また、何よりも重要なこととして、愛は自分を中心とするものではないことを学びました。本来、愛とは相手を思いやることです。わたしは謙虚になり、自分に釣り合うほど優秀な女性はいないかもしれないという^{ごうまん}傲慢な態度を改める努力をしなければなりませんでした。

わたしの心に起こった真の変化

その後最初に出会った人と結婚したと言えればよいのですが、そうはいきませんでした。実際は、数人の女性と数回デートをし、一人の人とは少し長く交際するところまでいきましたが、結局は断わられてしまいました。結果はすぐに出なかったものの、わたしは信仰を働かせて、ビショップの指示に従い続けました。

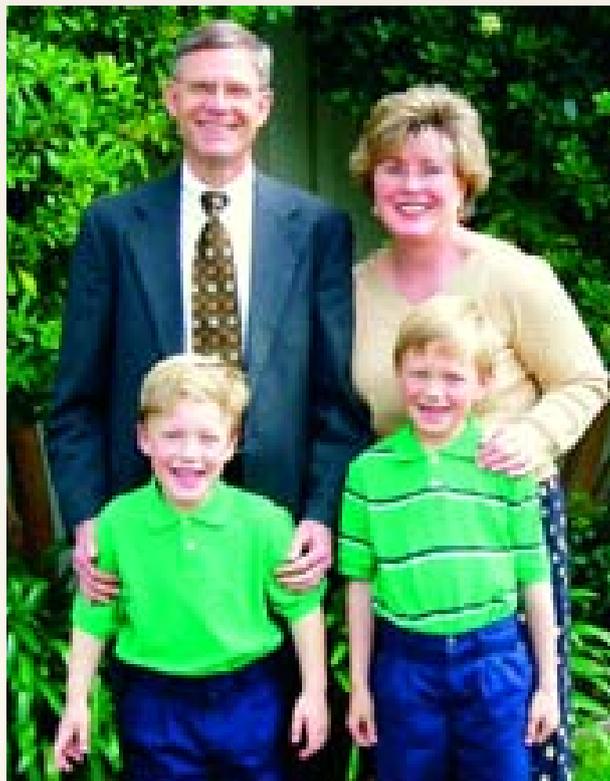
態度と考え方を改めて1年後、長年知っている一人の女性を見直すことにしました。以前にデートをしたことがありましたが、今度は違った見方で彼女のことを考えるようにしました。時がたっても色あせることのない資質をたくさん持った、楽しくて、あらゆる面で美しい、永遠にわたる伴侶候補として見たのです(彼女はこれ以外にもすばらしい資質を備えていました)。寛大にもわたしにもう一度チャンスくれた彼女は今、わたしの妻、そして大切な子供たちの母親となっています。わたしは彼女を心から愛しています。10年前には想像できなかった充足感を得ています。

わたしに心の変化をもたらしたのは何でしょうか。(確かにそれは、わたしの生き方を変える真の変化でした。)わたしが変わることができたのは、天の御父がどれほど深くわたしを愛しておられるかを、また、約束されている

すべての祝福を受けて幸福になるようわたしに望んでおられることを、ビショップが気づかせてくれたからだと思います。ビショップは、ゆがんだ優先順位を正せるように助けてくれました。率直に話し、わたしがそれまで長い間使ってきた言い訳で目標を見失うことのないようにしてくれました。

今のわたしには、心の中の正しくない部分を改めるときにどんなすばらしいことが起こるかが分かります。永遠の結婚に関して、わたしの心の中に大きな変化が生じ、わたしの人生はまったく違ったものになりました。自分を変える転機は、あの日ビショップ室で、ビショップの勧告に従えば祝福を受けると心に告げられた瞬間に訪れたのです。

今、わたしは確かに祝福されています。■



試された夜

リーハイ・L・クルーズ

小 学校を卒業する前に、最終学年の全生徒でフィリピンのネグロスオキシデンタル州までキャンプに行きました。テントを張り、グアバやマンゴーの林を探検して楽しい時間を過ごしました。夜になると、両親がわたしの様子を見てやってきました。そして、よく気をつけるようにと言って帰って行きました。

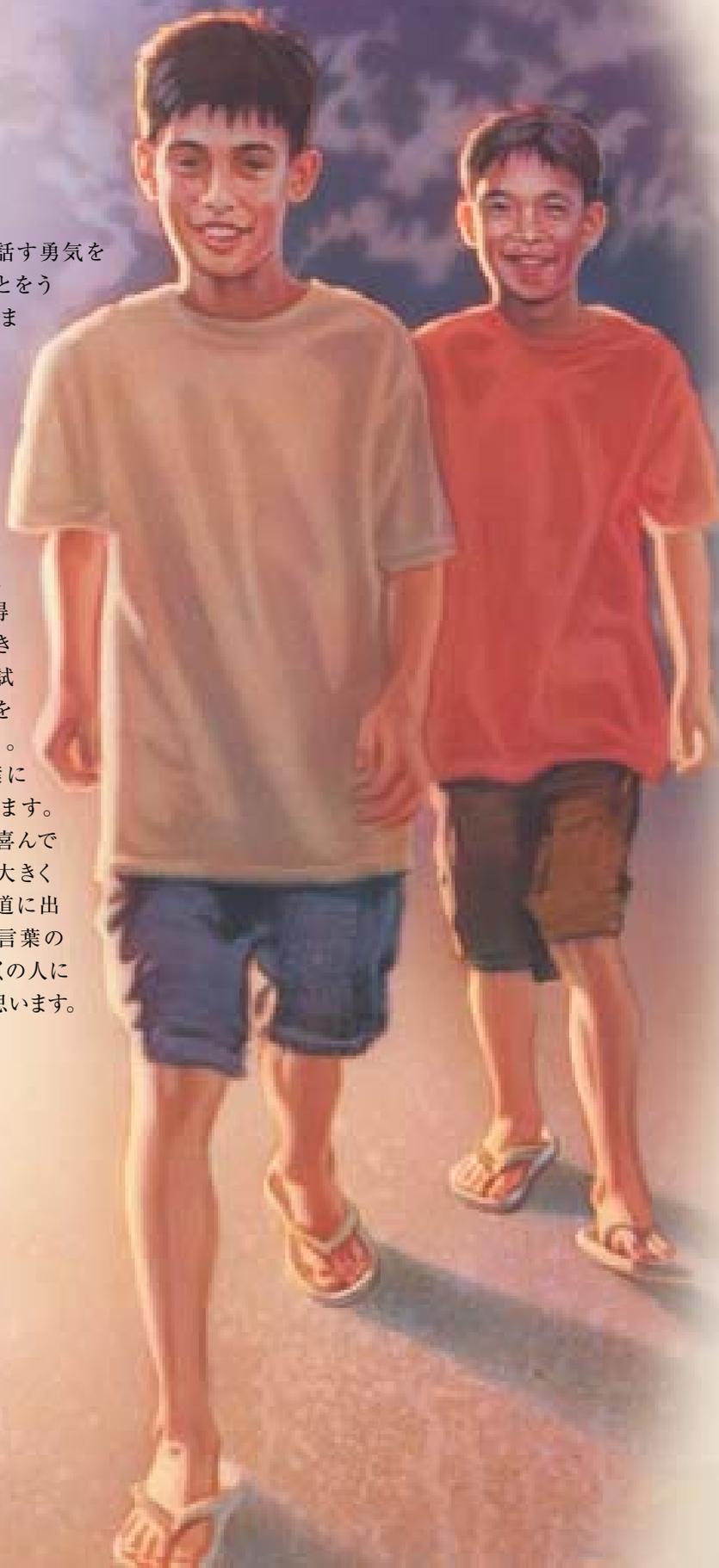
ある同級生が、年上のいとこの運転する車でドライブをしようと、わたしと何人かの友達を誘いました。そのいとこの運転でいろいろな所に行き、皆大いにはしゃぎました。ですがその後、数人がビールとたばこを持って来たのを見てわたしは驚いてしまいました。車をキャンプ場の近くに止めると、皆が車でビールを飲み、たばこを吸い始めました。わたしも誘われましたが断りました。

わたしは、早死にするからたばこは吸わないと言いました。また、自分の信仰に反するとも伝えました。知恵の言葉を教えられていたからです。わたしはそこにいた友達に、体は神の宮であり、知恵の言葉はその体を清く保つように教えている律法だと話しました。また、たばこを吸ったり、アルコールや茶やコーヒーを飲んだり、有害な薬物を取ったりするべきではないことを伝えました。そして一番の親友とともにその場を去り、自分のテントに戻って寝ました。

家に帰ってから、わたしは父に同級生の誘いに乗らなかったこと、それどころか知恵の言葉を教えたことを喜んで報告しました。聖霊がわたしを導い

て、友達に話す勇気を下さったことをうれしく思いました。

この経験から、わたしたちが一人であるとき、そして親やほかの人の助けを得られないときに従順さが試されることを学びました。知恵の言葉に感謝しています。この戒めに喜んで従います。大きくなったら伝道に出て、知恵の言葉の大切さを多くの人に教えたいと思います。



救い主を見分ける

ジェイド・スワルツベルグ

中 学校の食堂で友達とテーブルを囲んでいたとき、キリストの再臨が話題になりました。友達は何も宗教に関心なかったのですが、何度か教会に行っており再臨が預言されていることを耳にしていたのです。また、わたしが毎週教会に通っていて、救い主を固く信じていることも知っていました。

しばらく話が続いた後、わたしは皆の質問に答えて、キリストがおいでになる時を正確に知っている人はだれもいないと言いました。すると一人がわたしの方を向いて、とても真剣な顔でこう言いました。「ジェイド、もし近いうちに再臨があってイエス・キリストが来られても、わたしにはそれがキリストかどうか分からないかもしれないわ。そのときはあなたが教えてくれる?」

わたしは喜んでそうすると約束しました。それから別の話題に移っていきました。

友達は皆、あのと時の会話をすっかり忘れてしまったかもしれません。でも、わたしは何度も思い返していました。普段の言葉や行いから、友達はわたしが救い主を知っているのだと思ったのです。だからこそ、キリストが来られたらわたしに教えてもらおうとしたのです! けれども、わたしはほんとうに救い主を知っているのでしょうか。「あなたがたの顔に神の^{おもかげ}面影を受けているか」というアルマの問いに、はいと答えられるでしょうか(アルマ5:14)。

友達の何げない質問のおかげで、わたしは自分と救

い主との関係を何度も評価することができました。例えば、わたしの祈りと聖文研究は、主に近づけるほど意義のあるものでしょうか。そうであると願っています。そしていつか、キリストが再び来られるとき、純真な心と清い手をもって主の前に立つことができるよう願っています。そうすれば、主がどなたかすぐに分かるだけでなく、わたしの顔に主の面影が宿っているために、主もわたしを見分けることができになることでしょう(アルマ5:19参照)。





虫が

口の中に 飛び込んだら

霊の虫は、うっとうしいだけでは
済まないことがあります。
すぐに吐き出さなければ、
きわめて危険なことになりかねません。

アロン・L・ウェスト

あの土曜日の朝、外へ出たときに「今日、虫が口の中に飛び込んで来てくれないかな」などとつぶやいたわけではありません。しかしジョギングをしていると、それは現実となってしまいました。虫が1匹、口の中に飛び込んで来たのです！ わたしのせいではありません。何も悪いことはしていなかったのですから。気づいたときには口の中に虫がいたのです。

虫が歯と歯の間を猛スピードで通り抜けたとき、わたしはどうしたと思いますか。口の中でじっくり味わうなどということはもちろんしません。様子を見ようとそのままにしておいたり、飲み込んだりもしませんでした。どうしようかと考える

ことすらしません。すぐに虫を吐き出し、つばを飛ばしながらジョギングを続けたのです。

あなたには「虫」が口の中に飛び込んで来た経験がありますか。自ら望んだわけではないのに、ふさわしくない写真や歌、言葉や意見に出くわしたことはありませんか。多分あると思います。わたしたちの周りには悪の影響でいっぱいです。それらを避けるためにできることもたくさんありますが、自分に何の落ち度もなくても、その影響にさらされることがあるでしょう。このような霊の虫は命にかかわるほど危険です。小さな虫がわたしの体に与えたよりはるかに大きな害を人の霊に及ぼすのです。

霊の虫が口に飛び込んで来たら
どうすればよいのでしょうか。

わたしの口の中に虫
が入って来たとき
と同じことをしてください。
吐き出すのです！ ためらつてはいけません。その場を離れましょう。必要だったら走り去ることで。それがテレビやラジオなら消してください。コンピューターなら電源を切ってください。本か雑誌だったら、ごみ箱に捨ててください。そうした本や雑誌は、ごみ箱にあるほうがふさわしいのです。

ブリガム・ヤング大管長(1801 - 1877年)が話した「信仰の内なる力」を發揮しましょう。大管長はこう言いました。「預言者の言葉によると、この世はやがて滅び、わたしたちは義の統治が始まり罪悪が姿を消すのを目の当たりにします。しかし、悪の力と教えは——教えと呼ぶに値すればの話ですが——救い主の正義の進展に対して、いささかも攻撃の手を休めることはありません。彼らは徐々に撃退され、わたしたちは力で彼らを駆逐していくのです。そうです。信仰の内なる力と善き行いにより、……福音はさらに歩みを進め、広がり、発展し、栄えていくのです。」¹

ヤング大管長は、わたしたちの努力によって世の中が福音で満たされると言っていますが、これは、自分の生活を善いもので満たすわたしたちの努力にも当てはまります。賛美歌を歌ったり、聖句を暗唱したり、祈ったりして、悪い思いや画像を頭から追い出しましょう。「悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい。」(ローマ12：21)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、ポルノグラフィーについて繰り返し教えています。

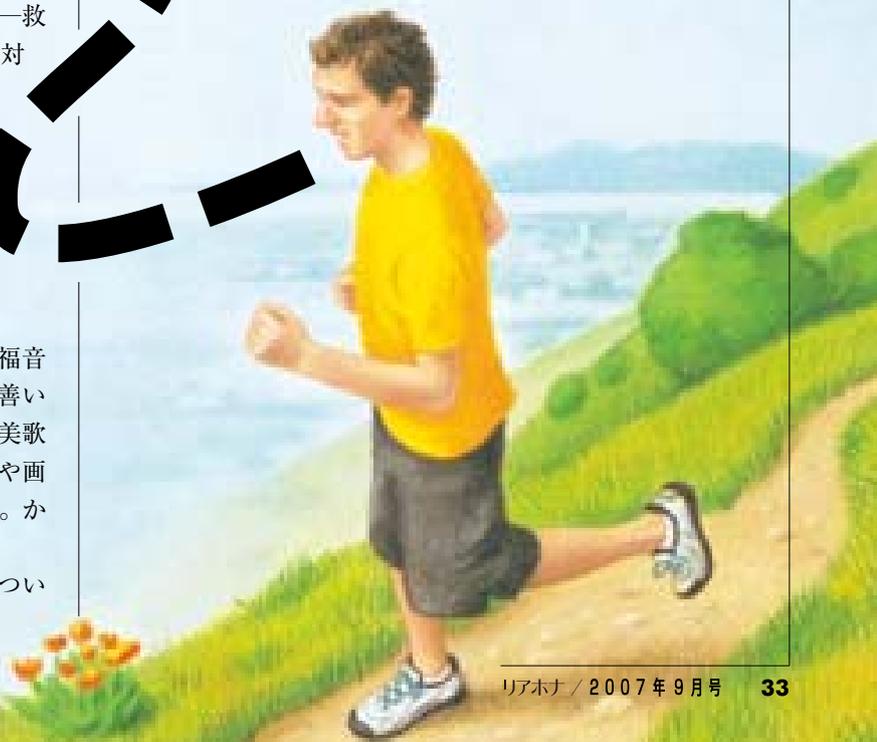
「もちろん皆さんは様々な面で誘惑を受けています。まるで世の中全体が性的な事柄に取りつかれているのではないかと思うことすらあります。いかにも巧妙に、いかにも魅力的に、皆さんに取りつかうと絶えずねらっています。皆さんは、テレビ、雑誌、本、ビデオ、そして音楽でも、そうした誘惑にさらされています。そのようなものに背を向けてください。遠ざかってください。それが『言うは易く行は難し』であることは、百も承知です。しかし、一度実行してしまえば、次はもっと容易に実行することができます。いつか、主の御前に立って『わたしは清く、汚れがありません』と言えるとしたら、それは何とすばらしいことでしょうか。

主はこの時代に一つの戒めを与えられましたが、それはわたしたち一人一人にも当てはまる戒めです。主はこう言われました。『絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。』そして、それに伴って主は一つの約束を授けられました。『そうするときに、神の前においてあなたの自信は増〔す〕……であろう。』(教義と聖約121：45) わたしは、主の言われたこの言葉は、もしわたしたちが心も体も清ければ、……いつかわたしたちも主の御前に自信をもって立〔つ〕時が来るであろう、という意味だと信じています。そのときには、心に自信を感じるとともに、皆さんのふさわしさを認めるほほえみに会えるでしょう。²

忘れないでください。虫が口の中に飛び込んで来たら、吐き出すのです！ ■

注

1. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』362 - 363
2. 『わたしは清く、汚れがありません』『聖徒の道』1996年7月号、57 - 58



タハミナクルの改修

2006年6月までには、パイプオルガンのすべてのパイプが、この写真にあるものを除いて、清掃のために取り外された。また、すべての観客から説教壇がよく見えるようバルコニー席の傾斜を大きくしたほか、傷を防止するため床と柱には覆いがかけられた。屋根の修復も完了している。

工事



ソルトレークタバナクルが閉鎖されていた2年間、
140年の歴史を持つこの建物では作業員によって
大規模な改修工事が行われていました。

ゴードン・B・ピンクレー大管長は、

2004年10月1日に行われた記者会見で次のように述べました。

「わたしはこの建物を愛しています。

このたぐいまれな建物の歴史的な景観を

損ねるようなことが一切ないように願っています。

……古い、元のままのタバナクルの弱くなったつなぎ目をしっかりとつなぎ、

……補強して、ありのままの、すばらしい美しさを残してほしいのです。」

改修工事の様子を写真で紹介します。



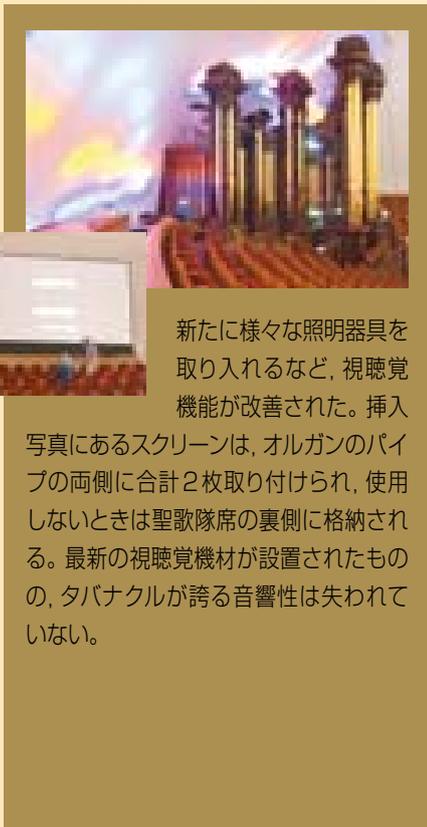


上——元の柔らかいマツの長いすの代わりに、堅いホワイトオークの長いすを取り付ける作業員。開拓者の職人たちがオーク材に見えるように手作業で塗装した元の長いすは、破損し、すり減っていた。元の長いす数点は常時展示される。

右——説教壇の中央には大きな昇降台が設置された。可動式説教壇(右)との組み合わせで、総大会形式、ファイヤサイド形式、あるいはオーケストラ指揮台形式に変えることができる。また、可動式説教壇には視聴覚機材、配線、換気設備が内蔵されている。さらにカーペットを統一し、新しい木工細工が施されたほか、中央幹部が大会の模様を見るためのモニターも設置されている。



バルコニー席に追加された二つの階段の一つ。上階の出入り口を6つとした。



新たに様々な照明器具を取り入れるなど、視聴覚機能が改善された。挿入

写真にあるスクリーンは、オルガンのパイプの両側に合計2枚取り付けられ、使用しないときは聖歌隊席の裏側に格納される。最新の視聴覚機材が設置されたものの、タバナクルが誇る音響性は失われていない。



数階建ての建物に相当する高さの足場に立ち、天井の修復を行う作業員。14層の塗装をはがした後、ようやく元の石こうが顔をのぞかせた。修復の後には以前と同じ配合の石こうを塗り、これまでと同一の音響性を維持している。元の天井の曲線的な形を変えることのないよう、細心の注意を払って作業が行われた。



バルコニー席の外壁にある模造塗装の修復も優秀な職人の手によって行われた。タバナクルの壁や柱の模造木目のほとんどで修復や交換が必要だった。



下—耐震対策の一部として、外側の支柱がより深く地中に埋め込まれ、新しい鉄筋コンクリート基礎で補強された。この基礎は歩道の下に埋め込まれている。

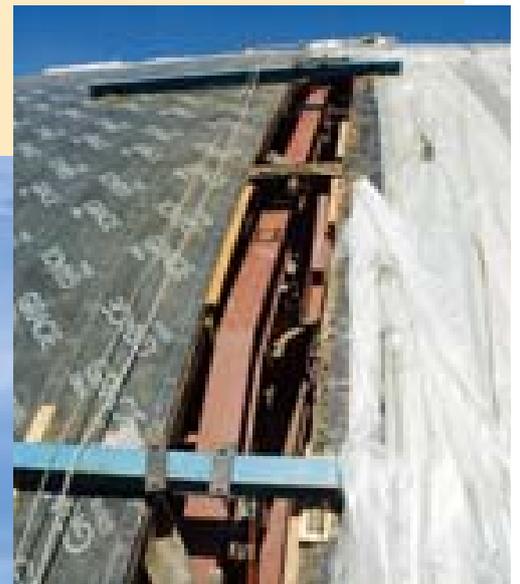


清掃され、調律された後、再び取り付けられたオルガンのパイプ。最も大きなパイプ(左)は木製でできており、大きすぎるため取り外すことができなかった。パイプには再び金めっきが施された。

タバナクル下層部の空間も模様替えが行われた。以前はパプテスマ室があった所にタバナクル合唱団とテンプルスクウェア管弦楽団の事務所が作られた。中央——女性更衣室には各隊員用のスペースがあり、常時衣装を置けるようになっている。男性隊員にも似たような場所がある。下——音楽図書室には合唱団の楽譜がすべて収められている。また、約350人から成る隊員の個別のロッカーも用意された。合唱団が発表する際は、図書係がそれぞれのパートに合わせた楽譜をバインダーにまとめ、個別のロッカーに入れておく。



2005年12月に撮影された新しいアルミ製の屋根。下——タバナクルの両端には、元の木製トラス(訳注——構造骨組の一形式)を強化するために「シスタートラス」(sister truss)と呼ばれる幅の広い鉄トラスが取り付けられた。左下——新しい屋根の設置に備え、ベニヤ板を取り付ける作業員。



十分な断食とは

ほかの人と同じように断食ができなくても、
犠牲を払うことにより祝福は得られるのです。

ライリー・M・ロリマー

子供のころ、断食日曜日は苦痛でした。一日中おなが鳴り、断食を終える夕食時が待ち遠しくてたまりませんでした。大きくなるにつれて断食の原則についての理解も深まってきましたが、6年生への進級を控えた夏に、ある出来事が起こりました。病気にかかってしまったのです。

症状は、普通の風邪やインフルエンザとは異なりました。わたしの体に異変が起きていて、原因はなかなか分かりませんでした。4か月にわたって多くの専門家を渡り歩き、ようやく何の病気か判明しました。いつものどが渴き、脱水症状を起こしやすくなるという珍しい病気だと診断されたのです。症例が非常に少なかったため、医師たちはわたしの症状がどのように変化していくのか十分に説明できませんでした。少しでも症状を改善できればと薬が処方されただけでした。

次の断食日曜日が来たとき、いつものように飲食を断とうとしましたが、それは大きな間違いでした。病気のために数時間水を取らないだけで具合がとても悪くなるということがすぐに分かったのです。

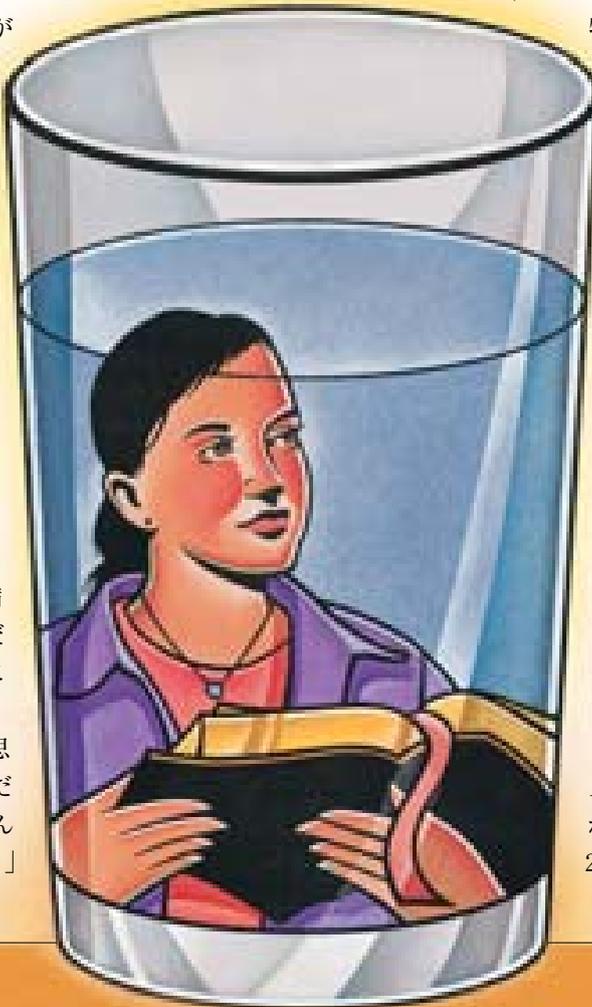
ショックを受けたわたしは、こう思いました。「断食のときに水を飲んだら、完全な断食じゃないわ！きちんと断食したことにならないじゃない！」

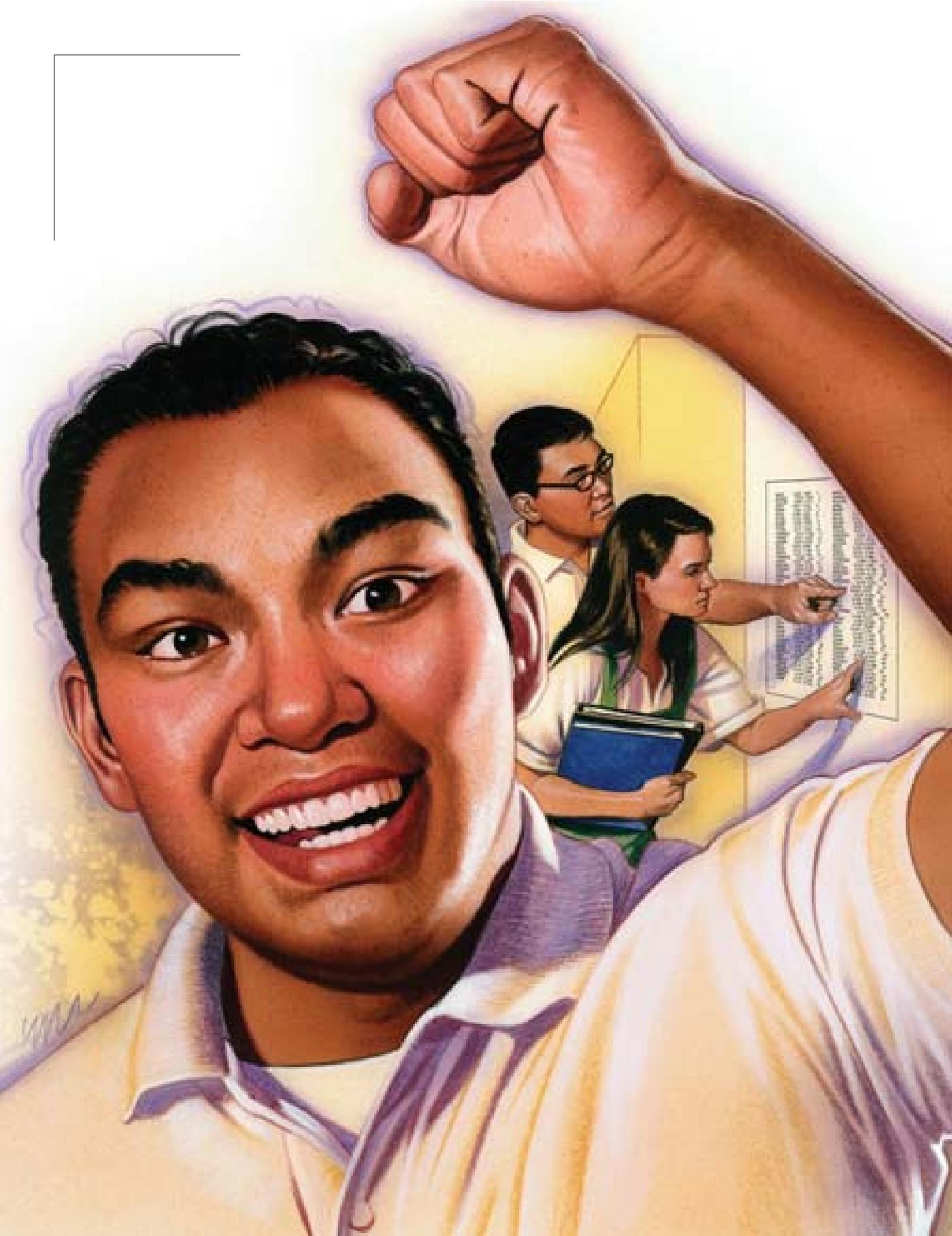
何か月もの間、この思いが頭から離れませんでした。わたしは断食についての聖文を研究し、この問題について熱心に祈りました。両親や若い女性の指導者にも相談しましたが、それでもまだ心穏やかではありませんでした。

そんなわたしに答えが与えられたのは、新約聖書に出てくるやもめのレプタの話を読んでいたある断食日曜日の朝でした（マルコ12：41－44参照）。やもめのささげ

物は世間的に見ればわずかなものでしたが、彼女の全財産であることを御存じであった救い主は愛をもってこれを受け入れられました。これを読んだとき、わたしは自分の断食が十分なものであると悟りました。最善を尽くしていたからです。主は人がささげるものを物差しにしてわたしの犠牲を測られているわけではありません。わたしがささげられるもので犠牲を測っておられるのです。

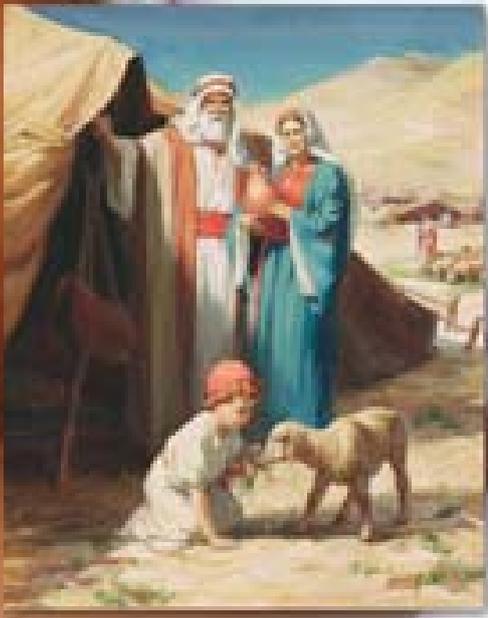
その日以来、わたしは断食について確固とした証^{あかし}をはぐくんできました。また断食をする間、御霊^{みたま}がともにあるように聖文を研究して祈る必要があることを知りました。しかし、それ以上に学んだことは、常に自分の最善を尽くしていればそれで十分だということです。自分の力以上に多くささげることを主が求められることはないのです（モーサヤ4：27参照）。■





は ん さ い

燔祭として ささげる



大学に合格したと分かったとき、
わたしは喜びのあまり
大声で叫んでしまいました。
それなのに、伝道に出るために
どうして大学での勉強の機会を
犠牲にできるでしょうか。

ジョセフ・レイ・ブリランテス

神 はまたアブラハムに言われた、『あなたの妻サライ、……わたしは彼女を祝福し、また彼女によって、あな

たにひとりの男の子を授けよう。……』アブラハムはひれ伏して〔喜んだ。〕(創世17:15-17; ジョセフ・スミス訳創世17:23参照)

わたしの叫び声はきっと全校生徒に聞こえたと思います。目を丸くして、一体何の騒ぎだろうと不思議そうに見ている生徒もいました。しかし、フィリピン屈指の大学の合格者名簿に自分の名前があるのを見たとき、わたしは喜びの気持ちを抑えることができませんでした。ほんとうに祝福されていると感じました。

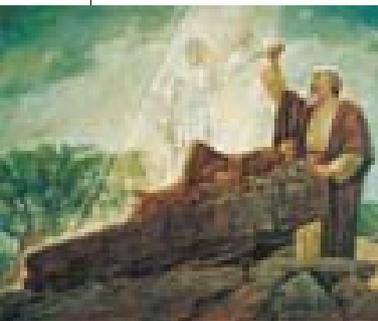
「名をイサクと名づけなさい。わたしは彼と契約を立てて、後の子孫のために永遠の契約としよう。」(創世17:19)

わたしがその大学に入ることが知れると、周囲の人々から尊敬のまなざしで見られました。それを思い出すだけで、自然と顔がほころんでしまいます。わたしの将来は決まったも同然でした。入学試験で成功できるように助けてくださった主にとっても感謝しました。

「これらの事後、神はアブラハムを試みて彼に言われた、『アブラハムよ。……あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れて……彼を燔祭としてささげなさい。』(創世22:1-2)

「天のお父様、今伝道に出ることはできません。ここですべきことがたくさんあるのです。どうか勉強を続けさせてください。学位を取ったら喜んであなた様の福音を宣べ伝えます。

お父様、わたしは勉強を続けなければなり



「主の使が天から彼を呼んで言った、……『わらべに手をかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った。』」

ません。将来のためなのです。

学部長の理解を得て2年間の休学を許可してくれるように努力したことは、あなた様も御存じのほうです。ですが学部長からの許可はどうしても得られないのです。もし伝道に出ることを選ぶなら、退学願いを出すように言われました。

天のお父様、今は伝道に出られません。将来のために大学が必要です。」

「アブラハムは燔祭のたきぎを取って、その子イサクに負わせ、手に火と刃物とを執って、ふたり一緒に行った。」(創世22:6)

わたしは悲嘆に暮れながら、大学の事務局長室の前まで来ました。事務局長はきっこう言うでしょう。「君はどうかしている。将来が約束されているのに、それを捨てることになるぞ。」そんな事務局長に、主がわたしを召されたなどとどうやって説明できるでしょうか。

「彼らが神の示された場所にきたとき、アブラハムはそこに祭壇を築き、たきぎを並べ、その子イサクを縛って祭壇のたきぎの上に載せた。そしてアブラハムが手を差し伸べ、刃物を執ってその子を殺そうとした時、」(創世22:9-10)

「事務局長にお会いしたいのですが。」

「退学願いを提出することについてです。」

「いいえ。成績は良好です。」

「いいえ。何の犯罪にもかかわっていません。」

「理由ですか。末日聖徒イエス・キリスト教会から専任で布教活動を行う召しを受けました。主に奉仕するために大学での勉強をあきらめなければならないのです。」

「いいえ。伝道は延期できません。奉仕は2年間です。」

「復学できないことは承知しています。」

「主の使が天から彼を呼んで言った、……『わらべに手をかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った。』」(創世22:11-12)

「えっ？ 休学を申請することができるのですか。学部長には、休学は1年間しか認められないので、大学を辞めなければならないと言われました。」

「最近、大学の方針が変わったのですか。学部長はきっとそれを御存じなかったのですね。わたしも知りませんでした。」

「心から感謝します。」

「主の使は……天からアブラハムを呼んで、言った、……『……わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。……また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである。』」(創世22:15-18参照)

2000年から2002年までフィリピン・イラガン伝道部で奉仕した後、わたしはケソンシティにあるフィリピン大学で学業を再開し、それからブリガム・ヤング大学ハワイ校に編入しました。将来結婚し、福音の中で家族を育てる日を夢見ています。

主は、わたしたちがすべてを犠牲として主にささげることを望んでおられます。しかしそれは、わたしたちが心の望みをかなえられないという意味ではありません。ただ主は、わたしたちが神を第一にするかどうかをお試しになることがあるのです。■

御存じでしたか？

日記を書くためのアイデア

日記を書く話題がなかなか見つからないときは、こんな言葉で始めてみてください。「子供時代のことで最初に思い出すことは……」あるいは「学校でいちばん楽しかった思い出は……」または「最近あった霊的な経験は……」。

スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)は、このように述べています。「教会の若い皆さんに申し上げます。日記帳を用意して生涯の記録を書き留めてください。天使たちは永遠にわたってその記録から引用するかもしれません。今日から始めて、生活のあれこれや心に深く考えていること、達成したこと、失敗、友達やほかの人との関係、偉業、印象に残ったこと、そして自分の証をそこにつづってください。」(「永世にわたる記録」『聖徒の道』1977年6月号, 301参照)

指導者へのヒント



教会の第9代大管長を務めたデビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970年)は、優れた指導者また

は教師に共通する、幾つの特徴について次のように話しました。

1. 「イエス・キリストの福音が世の光であることに関して絶対的な信仰を持ち、心から主に仕えたいという望みを抱いている。このような状態

にある人は聖霊を伴侶とし、導きを受けます。」

2. 「会員……に対する偽りのない愛を持ち、分け隔てなくすべての教会員と正しく接する決意ができています。会員を……尊ぶなら、その……会員もあなたを尊ぶでしょう。」

3. 「十分な備えをしている。優れた指導者は義務や責任を理解し、指導するよう自らに託された会員についてよく知っています。」

4. 「明るく振る舞う。その明るさは、強いられるものではなく、希望に満ちた人の内面から自然にわき出るものです。」(Conference Report, 1968年10月, 144)

どういう意味でしょう？

霊の死——霊の死とは神から離れることを意味します。霊の死には二つの原因があります。墮落とわたしたち自身の不従順です。

「全人類は、アダムが墮落したことによって主の御前から絶たれているので、現世の事柄に関しても霊的な事柄に関しても、ともに死んだと考えられているからである。」(ヒラマン14:16) この地上で、わたしたちは神のみもとから離れて生活します。贖罪を通して、イエス・キリストは全人類を霊の死から贖われます。「キリストの復活は人類、まことに全人類を贖って主の御前に連れ戻す。」(ヒラマン14:17)

さらに、霊の死はわたしたちの罪の結果としてもたらされます。罪を犯



「福音に忠実に従って生活しないかぎり、つまり『心と、勢力と、思いと、力』[教義と聖約4:2]を尽くして生活しなければ、闇を追い出すだけの霊的な光を発生させることができないのです。」

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老

「闇を出て、驚くべき主の光の中へ」
『リアホナ』2002年7月号, 78

すとわたしたちは汚れ、神の前で住むことができなくなります(ヒラマン14:18参照)。救い主はわたしたちをこの霊の死から贖ってくださいますが、そのためには主を信じる信仰を働かせ、罪を悔い改め、福音の原則と儀式に従わなければなりません(ヒラマン14:19参照)。(『真理を守る』「死(霊の)」84 - 85参照)



ジョン兄弟の 断食献金

グレッグ・バーゴイン

わたしは自分の目を疑いました。ジョン兄弟が壇上^{あかし}に立っていたのです。これまで彼が証する姿はおろか、教会で見かけたこともありませんでした。ジョン兄弟はその1か月後も教会に来て、証を述べました。

事の始まりは、ある日曜日の朝に開かれた神権役員会でした。わたしは若い男性の会長を務めていました。ちょうど『教会指導手引き』を皆で読んだところで、ビショップは座って静かに考え込んでいました。そして顔を上げ、このように言ったのです。「これからアロン神権の兄弟たちに、教会から足が遠のいている会員から断食献金を集めるようにしてもらいたい。」そしてビショップは、教師や祭司の協力も得て行うようにと言いました。

わたしは驚きました。南アフリカのケープタウンでは会員同士の家が離れていて、ワードの境界線の端から端ま

で車で約35分かかります。それまで若い男性は、徒歩で会員の家に行けないために断食献金を集めたことがありませんでした。距離が遠すぎるのと、安全面を心配したからです。

これらの問題をどのように解決するかを役員会で話し合った結果、一つの計画を立てました。長老定員会の了承の下、断食日曜日の前日の土曜日に、割り当てを受けた長老定員会の兄弟たちが若い男性と二人組になり、一緒に幾つかの家を訪問するというものです。ワードを区域ごとに分け、それぞれの組に教会に熱心な家庭とあまり頻繁に集っていない家庭を数件ずつ割り当てました。準備を進めるにつれて、この計画は長老定員会の兄弟たちが青少年と知り合い、また青少年が兄弟たちから良い助言を受ける機会にもなるだろうということが分かってきました。

計画を発表すると、若い男性は意欲的な態度を見せてくれました。断食献金を集める際には日曜日の服装をすることと、これはワードの会員を見守るという彼らの神聖な責任の一部であるということを改めて伝えました。

わたしは弟のアンドリューと組むこ

とになりました。次の土曜日、リストにあるすべての人を訪問しましたが、ほとんどは不在でした。そして最後に訪問した会員がジョン兄弟だったので。彼のことはよく知りませんでした。

車を降りたアンドリューはドアをロックして待ちました。返事がないので車へ戻ろうとしたときにドアが開きました。アンドリューはジョン兄弟と握手してこう言いました。「こんにちは。ほくはアンドリューといって、末日聖徒イエス・キリスト教会の者です。明日は断食日曜日です。会員を訪問して、献金を希望するすべての会員から断食献金を集めるようにビショップから依頼されて来ました。」

アンドリューはジョン兄弟に献金用の封筒を渡しました。ジョン兄弟は驚いていましたが、封筒を持って家の中へ入って行きました。数分後、笑顔で家から出て来ると、アンドリューに丁寧なお礼の言葉をかけ、封筒を渡しました。わたしも車を降り、しばらくの

間3人で話をしました。わたしたちが帰るとき、ジョン兄弟は手を振りながらこう言いました。「必ず来月も来てくださいね。」教会への帰り道、アンドリューはずっと興奮した様子でした。そして教会に戻ると、ビショップリックの一人に封筒を渡しました。

翌月も約束どおりに訪問すると、再びジョン兄弟は好意的に迎えてくれました。数か月すると、ジョン兄弟は断食日曜日に教会に来るようになりました。わたしたちが土曜日に訪問することで日曜日に集会があることを思い出し、次の日に来るのでした。

ジョン兄弟が教会に活発に来るようになり、わたしたちはほんとうにうれしく思いました。ジョン兄弟との間に特別なつながりを感じました。一人の人が群れに戻って来たことで感じた喜びは言い表すことができません。さらに数か月がたつころには、ジョン兄弟は定期的に出席するようになり、間もなくして長老定員会の会長会で奉仕する召しを受けました。

わたしたちにとって最も感動的な瞬間は、ジョン兄弟が^{じゅうぶん}自分の一とささげ物について^{せいさん}聖餐会で話す割り当てを受けたときにやって来ました。話の最後に、ジョン兄弟はアンドリューが初めて訪問したときのことを話しました。

彼は潤んだ目でこう言いました。「アンドリュー、あの日、君がああ青い封筒を持って我が家を訪ねてくれたことがわたしの人生にどれほど大きな影響をもたらしたか、君は決して理解できないでしょう。君は時間の無駄だと思ったかもしれませんが、でも、君がわたしに断食献金を納める機会を与えてくれたおかげで、わたしの人生は祝福されたのです。君が行ってくれた奉仕は、わたしが^{きょう}今日この場にいる理由の一つなのです。」■

レモネードと 1斤のパン

アナベラ・デ・レオン

6歳のとき、わたしは家族とともにグアテマラのケサルテナンゴにある新居に引っ越しました。この町はわたしの故郷となりました。引っ越したその日、わたしたちは疲れていたうえにのども渴いていました。兄がわたしを台所に連れて行き、コップに水をくもうとしましたが、水道はまだ使えませんでした。

わたしたちは困り果ててしまいました。遅い時間でしたし、知り合いもいません。すると、だれかがドアをノックしました。ドアを開けてみると、感じのいい、年輩の婦人が笑顔で立っていました。「ようこそ。わたしは近くに住んでいるテンチータです。きっと水が出ないんじゃないかと思って、レモネードとパンを持って来ました。」

レモネードを見たわたしはうれしさのあまり満面の笑みを浮かべました。数日後、テンチータはわたしたちを末日聖徒イエス・キリスト教会の集会に誘い、1冊のモルモン書をプレゼントしてくれました。

わたしたちはすぐに宣教師から福音を学び始め、3か月後には長老たちからバプテスマを勧められました。そして年上の5人のきょうだいが教会に入りました。まだ準備ができていないと感じていた両親はその後も教会に出席し続け、2年後、わたしが

8歳になったときに3人でバプテスマを受けました。

幼いながらも、わたしはイエス・キリストの福音が家族に大きな変化をもたらしたことがよく分かりました。すべての家族と同じように我が家にも問題がありましたが、家族が互いをよく理解し、一致できるようになっていたのので、真実の教会で受けた教えを通して必ず問題を解決できるという自信がありました。テンチータがわたしたちに福音を紹介してくれたことに感謝しました。しかし程なくして彼女は引っ越してしまい、連絡が取れなくなりました。

13年後、グアテマラ・グアテマラシティー神殿で家族の結び固めを受けた後、わたしは伝道に出る決意をしました。グアテマラ・グアテマラシティー南伝道部に召されたわたしは、最初の



任地で病気の会員やあまり熱心に教会に集っていない会員をよく訪問しました。ある日、ビショップから病気で外に出られないあるお年寄りの姉妹を訪問するように頼まれました。ビショップは、その姉妹の大好きな飲み物はレモネードだということも教えてくれました。

同僚とその家を訪れると、病に伏していたその姉妹がだれであるかすぐに分かりました。わたしは彼女を強く抱き締めました。初め、テンチータ姉妹はわたしのことが分からなかったのですが、少し話をすると、昔のことを思い出して目を輝かせました。彼女はほほえんで言いました。「あなたのところにはレモネードとパンを持って行ったのよね。」

わたしは、彼女がパンとともに福音を携えて来てくれたこと、そのおかげでわたしが伝道に出ることができたことを彼女に感謝しました。

レモネードと1斤のパンを人と分かち合うことは簡単でお金もかかりません。しかし、テンチータ姉妹がしたように、相手の永遠の幸福を思い、愛情と関心を寄せて分かち合うことにより、レモネードとパンは高価なものとなります。テンチータ姉妹は、わたしと家族の人生を変えました。同じように、わたしたちも皆、人々の人生を変えることができます。「生ける水」と「命のパン」に至る道を見いだせるように助けることで、彼らの人生が変わるのです(ヨハネ4:10;6:48)。

今日、わたしたち家族が隣人と分かち合うのはレモネードとパンだけではありません。わたしたちはイエス・キリストのまことの福音も一緒に分かち合うのです。■

だから、ぼくに 親切にしてくれるんだよね

イレイン・ピアソン

新しい家庭訪問先の一覧をもらうと、ワードの新会員の名前がありました。知らない人に電話をかけることは不安でしたが、同僚とわたしは、ジェーン(仮名)を訪問する日時を決めました。約束をした朝に彼女の家に着くと、玄関から少し離れた所で短く祈りました。ジェーンは3人の幼い息子たちと待っていました。

毎月の訪問を通してジェーンと知り合うにつれ、彼女の息子たちとも仲良くなりたいと思いました。下の二人の息子は同僚とわたしの隣に座ってくれるので、わたしたちは絵本を読んであげたり、一緒に遊んだりしました。しかしちばん年上で4歳のアレックスは、頻繁に母親を訪ねるわたしたちにそう簡単になつこうとはしませんでした。アレックスは自立心が強く、わたしたちと打ち解けるのに抵抗を感じているようでした。

ジェーンの訪問教師になって1年が過ぎたころ、彼女の家が火事になったという連絡が入りました。夫とわたし



は何か手伝えることはないか、急いで様子を見に行くことにしましたが、そのときクラッカーとペットボトルの水とおもちゃの車を持っていった方がよいと感じました。煙が立ち上る自宅の向かい側の歩道にジェーンが立っているのが見えました。彼女の夫は消防士とともに被害状況を見に行っていて、ジェーンはひぎにしがみついて泣きじゃくる3人の子供たちをなだめていました。

ジェーンに話しかけると、彼女は夫のところに行きたいと言いました。わたしたちは下の二人の子供を車に連れて行きました。子供たちはおなかをすかせ、のども渴いていたので、わたしは食べ物と水を持って行くようにという聖霊の促しがあったことに感謝しました。二人はすぐに落ち着きました。しかし、アレックスはまだ母親にしがみつきのまま泣いていました。ジェーンはアレックスを連れて現場に行くことはできません。彼女は夫のもとへ行くべきか、それとも息子をなだめるべきか迷っていました。

わたしはジェーンに行くように勧めました。そしてアレックスの顔をのぞき込み、お母さんがお父さんを探しに行っている間、抱っこしてもよいか尋ねました。驚いたことに、うんと言ってくれました。腕に抱き上げると、アレックスはわたしの肩に寄りかかりました。わたしは背中をさすりました。ジェーンが夫を探している間、わたしはアレックスの耳もとで「大丈夫よ」とささやいていました。すすり泣きが落ち着き、呼吸が穏やかになっていくのが分かりました。

歩道に立っていると、アレックスは小さな声でこう言いました。「おばさんはぼくのお母さんの先生だから、ぼくに親切にしてくれるんだよね。」

わたしは静かに涙しました。アレックスが、母親にとってわたしたちが大切な存在であることを知っていたことが分かったからです。アレックスは、わたしがお母さんの先生だから自分にも親切にしてくれると思ひ、わたしを信頼してくれたのです。■

思い出せない 贈り物

ゲリー・R・ワングズガード

父 からもらった最高の贈り物の一つは、わたしが覚えてもないものです。父は決してそのことを話しませんでした。それが父でした。何年もたってから、わたしは母からその贈り物について聞きました。

母も父も末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として育ちましたが、父にたばこを吸う習慣があったために神殿で結婚できずにいました。両親の民事結婚を執り行ってくれたビショップは、子供が生まれる前に神殿で結婚するようにと愛情を込めて両親を励ました。しかしわたしが生まれたとき、両親はまだ目標に向かって努力している最中でした。

わたしの2歳の誕生日が近づいても、両親はまだ神殿に入れませんでした。母は二人目の子供が生まれる前に家族の結び固めを受けたいと切に願っていましたが、父はまだたばこを吸っていました。

2歳の誕生日に起きた出来事を思い出せたらいいと時々思うことがあります。11月初めのその日に、わたしは父からのあの贈り物をもったのです。夜、仕事から帰って来た父は、お昼ご

飯の入っていた大きな入れ物を置いてコートを脱ぐと、わたしを抱き上げました。「ゲリー、おまえのために特別な誕生日プレゼントがあるぞ。」父がわたしのためにプレゼントを買う余裕などあるわけがなかったので、それを聞いた母は驚いたと言っています。

父はシャツのポケットに手を入れ、使いかけのたばこの箱を取り出し、わたしに渡しました。母がやめてと言いかけると、父は「これは息子と父親の話だ」とでも言うかのように手で母を制しました。

それから静かな口調でわたしにこう言ったそうです。「もう何日か前から考えていたんだが。ゲリー、たばこを吸う父親の記憶をおまえには持ってほしくないんだ。わたしがたばこをやめて、もう二度と吸わないという約束を今日のおまえへの贈り物にしたい。」

以来、父はたばこを吸わなくなりました。そんなに突然やめるには、きっと大変な努力をしたのでしょう。わたしは覚えていませんが、それが父からもらった特別な贈り物です。しかし、この贈り物はもっとすばらしいことをもたらしました。

数か月後、わたしたちは弟を身ごもった母とユタ州ローガン神殿で家族として永遠に結び固められたのです。

愛にあふれる、思いやりある父から何年も前にももらった、あの贈り物にほんとうに感謝しています。■



御霊が心の琴線に触れました

わたしたちがみもとに戻るために必要なすべてのことを用意してくださった天の御父は、何と愛に満ちた御方でしょう。御父はわたしたちに『リアホナ』をお与えになりました。これは他に類を見ないすばらしい機関誌です。心から謙遜に真理を求め人々は、『リアホナ』を通してもたらされる御霊が心の琴線に触れるのを感じるでしょう。

『リアホナ』を読むときはいつも、世界中の兄弟姉妹と交わっているような気持ちになります。ほんとうに偉大な祝福です。

フィリピン、ビクトリノ・F・デラ・クルース・ジュニア

家族で愛読しています

すばらしい出版物である『リアホナ』に感謝しています。家族で毎月楽しみにしていて、最大限に活用しています。例えば、2006年7月号ではバプテスマと確認の儀式に息子を備えるうで役に立ったすばらしい記事がありました。また、『リアホナ』のすぐれた写真は娘の注意を引きつけています。まだ字は読めませんが、視覚的にメッセージをとらえているようです。ある日曜の午後、わたしたちは「日曜日ボックス——えんぴつ回し」で遊び、とても楽しい時間を過ごしました。家族のきずなが強められました。

スペイン、カゾーラ家

深い感銘を受けました

長年の間、『リアホナ』を定期購読しています。いつも尊敬と喜びをもって読み、教化されています。特に2006年7月号に掲載されたディーター・F・ウークトルフ長老の「わしの翼に乗って」という記事には深い感銘を受けました。とても役立つメッセージでした。

ドイツ、ゲルノット・ラール

ホームティーチングで活用しています

2006年1月号に掲載されたトーマス・S・モンソン管長の「主の設計図」という記事に感謝します。家族に良い影響を与えてくれました。また、ホームティーチングをする際にも役立っています。

ニカラグア、ハイメ・クルス

『リアホナ』によって強められる信仰

『リアホナ』は大きな祝福です。

この危険な現世にあって、数多くの試練や誘惑を切り抜けるための手引き書であり道具です。『リアホナ』のおかげで、信仰を増し、強めることができます。

今通っている学校ではわたしが唯一の教会員ですが、『リアホナ』には、わたしが直面している問題に関連した記事が載っています。

フィリピン、マーク・アンソニー・ブノンバヤン

クリスマスの贈り物

友人に『リアホナ』2006年12月号をプレゼントしました。読んだときにすばらしい気持ちになったようで、このように言ってくれました。「とても素敵な贈り物をありがとう。おかげで人生が変わった。このすばらしい教会に入る準備ができたよ。」友人をキリストのもとに導く手伝いができて、幸せな気持ちになりました。

ガーナ、クワメ・アサント

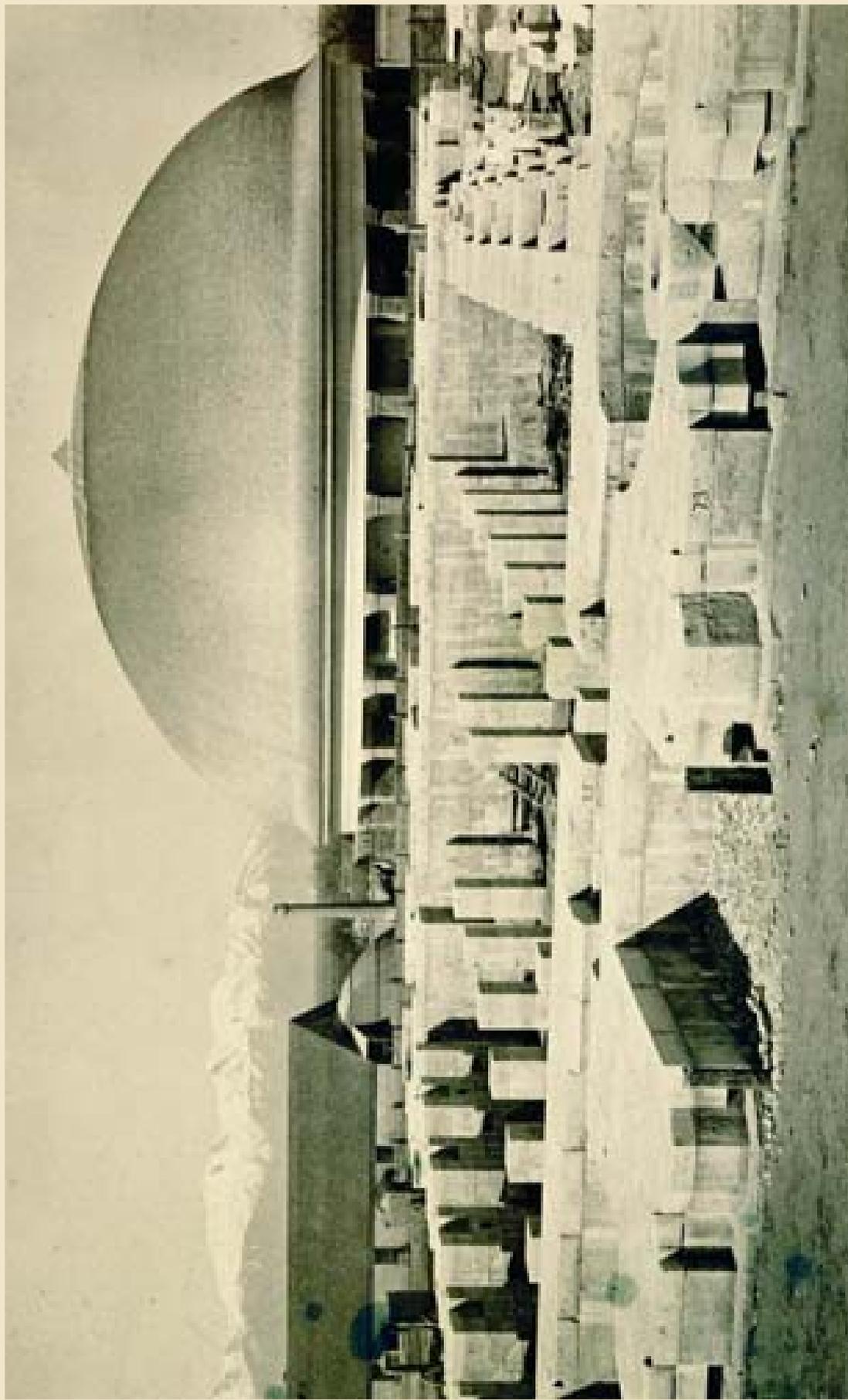
レッスンの補助教材

『リアホナ』はこの時代に生きるわたしたちのための手引き書です。お

かげで、教会員としてのわたしの生活はあっというまに幸福なものとなっています。支部で日曜学校の青少年クラスの教師をしていますが、レッスンでは聖文と併せて『リアホナ』を使っています。生徒もわたしも多くのことを学んできました。この優れた刊行物に感謝します。
ブラジル、アデイルソン・デ・スーザ・ナスキメント



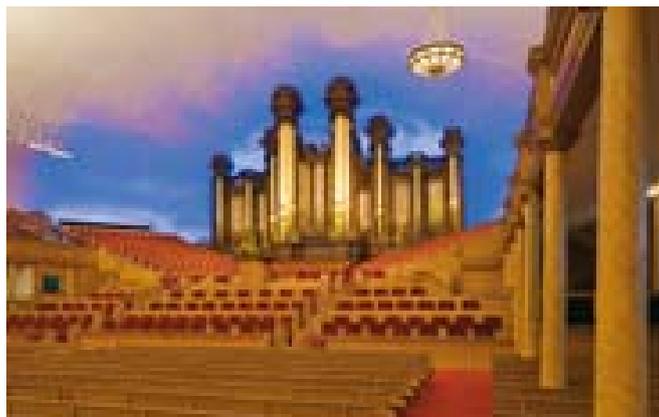
お便りをお寄せください
電子メールの場合——
liahona@ldschurch.org
郵送の場合——
Liahona, Comment
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
編集の際、お便りの長さや表現を修正する場合があります。ご了承ください。



1870年ごろのテンブルスクエアの写真, C・R・サベージ

ドーム型の屋根を持つタバナクルがソルトレーク神殿の土台を見渡している。この写真ではまだ建築中だが、幅46メートル、奥行き76メートル、高さ24メートルのタバナクルは、この種の建物としては世界有数の規模を誇るものであった。

左側には、1851年5月21日に奉獻されて以来使われてきた、古い日干しれんが造りのタバナクルが建っている。



ソルトレーク・タバナクルの改修工事が始まる際の
記者会見で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は
このように述べました。

「このテンプルスクウェアにある二つの偉大な建物、
すなわち神殿とタバナクルは、
年を経た尊ぶべき両親を思い起こさせてくれます。
神殿が父親で、タバナクルが母親です。
この二人は多くの世代を経た今もお立ち、光を輝かし、
理解力を増し、知識、愛を与えています。」
「生まれ変わったタバナクル」34ページ参照